

平成23年3月11日から平成25年3月11日

飯舘村2年間のあゆみ

3月11日

午後2時46分

東北地方太平洋沖地震発生

巨大地震発生により、村内の水道、電気、電話などのライフラインは絶たれました。村では、午後2時55分に災害対策本部を設置し、村内の被害状況を確認するとともに、被害状況を区長に知らせるよう公用車で広報活動を行いました。

午後2時55分

役場第一会議室に災害対策本部設置



▲役場第一会議室内に設置された災害対策本部、地震発生当日の午後7時のようす。停電のため発電機と裸電球で明かりをとっています

村職員が村内の被害状況の確認を開始



▲午後5時41分に撮影した、小滝大倉線

▼地震によって壊れた役場の屋根瓦



午後9時23分

国が東京電力福島第一
原子力発電所から半径3km
以内の住民に避難指示。

▶12日の朝の公民館前。冷え込み雪が薄く積もっています



までいな家・いちばん館に避難所を開設



▲までいな家のような



▲飯舘村には、浜通りから1,200人が避難してきました。いちばん館のようす。前日から気温が低く、暖をとるのに苦心しました



▲福島県職員との打ち合わせ

3月12日

午前5時44分

国が避難指示範囲を原発から半径10km以内に拡大。

午前6時頃

村の簡易水道の断水と節水を知らせるため、村職員が広報活動。

午後3時36分

東京電力福島第一原発1号機が水素爆発し、建屋が大破。職員が広報車で村内3方面に分かれて広報活動。

午後6時25分

国が避難指示範囲を原発から半径20km以内に拡大。

村内に避難所を開設

12日夜には、原発から少しでも遠くへ避難しようとする車で県道原町川俣線が渋滞となり、飯舘村にも村外から多くの人が避難してきたため、避難所を設置。村職員のほか、消防団や女性消防隊、婦人会、村社会福祉協議会など多くの村民が対応に追われました。



▶いちばん館のテレビに注目する避難者

放射線量の上昇とともに高まる緊張



▲3月22日から23日にいちばん館で行われた村民対象のスクリーニング検査では1,330人が検査を受け全員異常なし



▲3月25日、県の放射線リスクアドバイザー高村昇氏の講演会には悪天候にも関わらず600人が集まりました

東京電力福島第一原発3号機が爆発した3月15日の村の天候は雨。夜には雪に変わりました。14日からいちばん館前に設置されていた放射線測定器の放射線量値はこの日急激に上昇し、午後6時20分ごろには毎時44.7マイクロシーベルトを記録。村内にも不安が広がり、スクリーニング検査や子どもたちの甲状腺被ばく検診、放射線への理解を深めるための講演会などさまざまな対策がとられました。

また、3月21日には村内の水道水から高濃度の放射性物質が検出されたと国が発表したことを受け、村職員が全戸を回り飲料水を配布し、全家庭に水道水、井戸水、沢水の飲用自粛を要請しました。



外部被ばく検査

▲3月29日と30日に役場庁舎で15歳未満の子どもたちを対象に行われた検査



▶サーベイメータを体表にあてて線量値をみるようす



甲状腺被ばく検査

▲外部被ばく検査後に行われた甲状腺被ばく検査では、サーベイメータをのどにあてて数値を検査

救援物資の到着・燃料不足

避難所が開設されたころ、村には他自治体や企業、個人から支援物資が届き始めます。救援物資として水や食料のほか、毛布やおむつなど日常生活の必需品が村に寄せられました。

しかし、村内では物資の流通が止まり、ガソリンをはじめとする燃料不足が生じ、深刻な問題となりました。村内のガソリンスタンドでは1回の給油量を制限したり、村民だけが使える給油カードを交付するなどの措置がとられました。



▲3月15日 燃料を求め、開店前のガソリンスタンドに連なる長蛇の列。給油には「1台1,000円分」「1台10ℓ」などの制限が設けられました



▲3月22日 前日の21日に村簡易水道水の摂取制限が発令されたことを受け、水輸送に協力する村内駐屯の自衛隊



▲3月22日 自衛隊とともに飲料水を配る村民



▲3月25日 村内ガソリンスタンド

行政区長会議を開催し、避難意向調査について説明

東北地方太平洋沖地震に係る飯館村の状況

○ 人的被害 軽傷 1名 (70歳代女性)

○ 物的被害 ・路肩陥没、土砂崩れなど、村道、農道、林道合わせて約70か所
・家屋は、屋根損傷など軽微な被害多数
・水道管破裂、全村断水
・全村停電、電話不通、携帯電話不通、

○ 避難者の受入 (3月16日(正午) までの受入状況)

No.	施設名	受入者数(延人員)	1日最大定員	摘 要
1	いちばん館	1,300人	280人	3/12～
2	草野小学校	1,700人	450人	3/13～
3	臼石小学校	700人	300人	3/14～
4	までいな家	180人	30人	3/12～
5	飯樋小学校	250人	400人	3/15～
6	老人いこいの家	36人	150人	3/16～
	計	4,166人	1,610人	

※受入者(南相馬市民が多数を占める。その他浪江町等)

○ 村の初動対応及び推移

3月11日	14:46 発災	14:55 飯館村災害対策本部設置
3月12日		避難者受入、一部電力復旧
3月13日	16:30	対策本部の電力復旧、一部水道復旧
3月14日		水道復旧(全村)、電力復旧(全村)
3月15日		携帯電話回復(全村)、一般電話(一部不通)
3月16日		一部燃料(ガソリン、灯油類)確保 村災害対策本部開催

○ 学校の状況

- ・幼稚園 3月中 臨時休園
- ・小学校 3月中 臨時休校
- ・中学校 3月中 臨時休校
- ・あづかり保育 3月中 臨時休園
- ・保育所 3月中 臨時休園

○ 議会の状況

3月18日 本会議を開催し、延会手続きの予定
・専決処分の承認について(地震対策)

3月23日 予算審査特別委員会開催

3月25日 本会議、議案審議、閉会の予定

◎ 現在、緊急に必要な物資

- ・燃料(ガソリン、軽油、灯油、ガス)
- ・飲料水
- ・薬品類(一般家庭薬品)
- ・食糧(副食物)

行政区長会 配布資料

村職員が燃料班をつくり活動

F A X 送 付 書	
平成23年3月18日	
送信先	
発信者	大いなる田舎 までいライフいいたて (産業振興課) 職員名 〒960-1892 飯 館 村 役 場 T E L 0244-42-1625 F A X 0244-42-1601 携 帯 090-9630-6079
文書名	燃料の支援について
原稿枚数	この送信表を含む B5- 枚 A4- 1枚 B4- 枚 A3- 枚
送信内容	いつもお世話になっております。 ただ今飯館村は放射能の見えない恐怖の中にいます。避難しようとしても燃料 が足りません。飯館村民を守るためにどうか燃料の支援をよろしくお願いいた します。 助けてください。

◀村内の燃料不足を訴えるとともに、
支援を要請する F A X

県外避難希望3万人超

県、他県との調整決める

県内の避難所がほぼ満杯状態となり、大規模な避難の受け入れが困難になったため県は十六日、屋内退避区域の住民が県外にスムーズに避難できるように他県と調整することを決めた。退避区域のうち、南相馬市と飯館村で計三万数千人が県外への避難を希望しているとみられる。県は原発から三十キロ圏内の避難者を県内で受け入れていた。増加

茨城県や栃木県などから要望があった場合、県外避難を支援する。具体的には避難先の調整を始める方針。国はバスなどの移動手段確保や支援物資支給、スクリーニングチームの派遣などで県外への避難が円滑に進むようにする。区域内には医療機関六施設、特別養護老人ホームなどが十七施設あり、県は自治体か

福島民報新聞 H23.3.17

第 2 回村議会定例会を開催



▲災害対応のため作業服で集まる議員たち。予定を大幅に縮小し開催しました

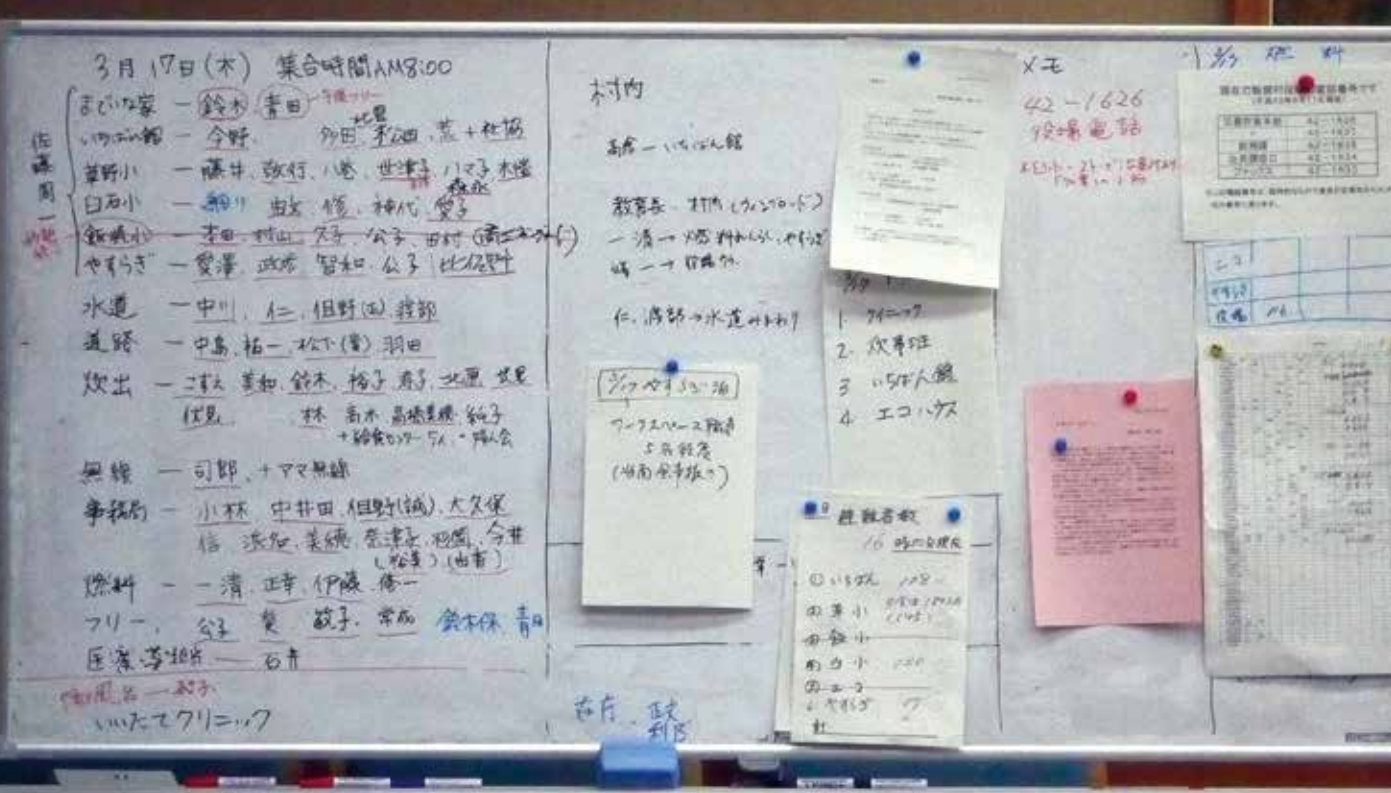
村議会東日本大震災並びに東京電力福島第一原子力発電所事故災害特別委員会を設置

避難させることに至った経過・対象者・スケジュール等について
1. 避難させることに至った経過 東京電力第1原子力発電所の1号機～4号機までの放射能漏れの事故により、本村の狹平地区が「屋内退避⇒できるだけ家の外には出ないほうがよい、というレベルの段階です。」の区域に入り、現在地区の住民のうち希望者について「やすらぎ」に一時避難させております。しかしながら、他の地域の皆さんからも、テレビ等の報道で今回の事故による放射能漏れに対する不安が大幅高まっております。 したがって、村としては現時点においては国が指示する避難区域には入っておりませんが、今後の有事に備え、また村民の皆様のお安全安心を確保するため、バスによる集団避難を希望される方に限って、今回避難させる判断をさせていただいたものですので、ご理解をお願いするものです。
2. 避難の対象者 1) 村民及び村民宅に避難されてきている他市町村の親戚、知人等のうち、 <u>バスによる集団避難を希望されている方。</u> 2) 村の避難所に避難されている方のうち、 <u>バスによる集団避難を希望されている方。</u>
3. 避難の日程 《第1日目》 ・3月19日(土) 午後1時 役場前出発(集合は12時30分まで) ○役場までは、 <u>スクールバス</u> で各集会所ごとに巡回し、避難者の輸送を行う。(集会所ごとの集合時刻は、別紙のとおり) ○収容人員 700名 《第2日目》 ・3月20日(日) 午前10時 役場前出発(集合は午前9時30分まで) ○役場までは、 <u>スクールバス</u> で各集会所ごとに巡回し、避難者の輸送を行う。(集会所ごとの集合時刻は、別紙のとおり) ○収容人員 700名 《第3日目》 ・3月21日(月) 午前 時 役場前出発

委員会では、住民の安全確保をはかるため、希望者を集団避難させることを決定。避難先は、県の斡旋で栃木県鹿沼市総合体育館と決まりました。

平成23年3月18日(金) 11:30 現在
■福島県飯館村の震災・原発被災の現状
災害対策本部長(飯館村長) 菅野典雄
1. 人の状況 避難民を500人収容、多くは南相馬市や双葉郡などの被災者と原発事故避難者である。 村外の多くは、自宅で不安にかられて屋内退避の生活をしいられている。肉用牛飼育など畜産の村で、家畜をどうすればいいの不安が広がっている。 村民の中には、親戚知人宅などへの自主避難した者が約3割にいるという風評だが、実態は現在行政区長と消防団で調査中である。
2. 物資 ・ガソリン、灯油等が村内でほとんど手に入らない ・緊急車両のガソリンは隣の川俣町まで取りにいくが、取りに行くまで時間がかかり、スムーズな確保ができない ・不足しているもの 移動のための燃料、食糧・・・避難者、村民の食べもの・・・米、野菜、肉、牛乳、お茶など 薬品・・・高血圧など持病のある人の内服薬、風邪薬、下痢止め 医療・保健・・・お医者さん、看護師、要介護者の介護人 日用品・・・マスク、生理用品 要介護者の搬送車両、大型バス、
3. 放射線数値と対応 数値は添付グラフ。ヨウ素剤12,000個を確保しているが、18日現在、39歳以下の住民へはまだ投与していない。
4. 今後の対応 ＜決定事項＞ ・住民の安全を確保するため、飯館村として集団自主避難を決定した。 ・集団避難先は、栃木県鹿沼市、県立南体育館(1,800人) ・計画輸送人員数は約2,000人 ・輸送手段は、大型バスで、陸上自衛隊福島駐屯、飯館村スクールバス、民間バスを、県の責任で実施を手配している。 ・自主避難を希望している住民は、自己責任で避難していただく。 ＜課題＞ ・自主避難できない寝たきりや高齢者などの移動手段が無い人の移動手段の確保 ・特別老人ホーム入所者の移動手段の確保 ・集団避難を希望する人数把握のため、18日夕方から地区に出向き説明会を開き、意思確認していく。 ・ヨウ素剤を住民に投与する時期はいつがいいのか? 判断できる資料が欲しい。

▼当時の職員配置が書かれたホワイトボード



3月19日

栃木県鹿沼市避難所への集団避難
(第一陣) を行う (～4月30日)

飯舘村では区長を通して希望者を募り、栃木県鹿沼市への緊急避難を行いました。村内の希望者と村外からの避難者のうち約500人が、3月19日と20日の2日間にわたり鹿沼市へ避難しました。



◀避難希望者の受付で混雑する庁舎内

▶最小限の荷物を手にバスに乗り込む村民

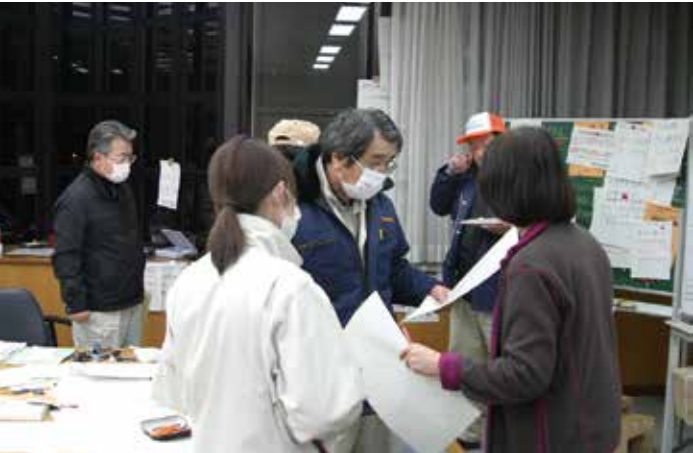


◀避難所となった鹿沼総合体育館のようす

鹿沼に避難する際に行われたスクリーニング検査で靴に付着した泥から高濃度の放射性物質を検出。

3月19日

午後7時、役場第一会議室



村内被害への対応に加え、鹿沼避難所との連携につとめる職員。

3月19日

民主党衆議院議員・増子輝彦氏来庁



平成23年3月19日(土) 14:30 現在

■福島県飯舘村の震災・原発被災の現状

災害対策本部長(飯舘村長) 菅野典雄

1、集団避難の状況

本日午後1時、集団避難を希望する村民等を対象に移送を開始した。

第1陣の集団避難者は313人。自衛隊準備のバス3台と村のスクールバス5台で、現地の避難者支援に就く村職員3人と一緒にスクリーニング地点の福島市松川サービスエリアに向かい、スクリーニング後に鹿沼市に移動する。

集団避難者の中には南相馬市や双葉郡などの被災地区から村の施設「いちばん館」に一時避難していた78人も鹿沼市へ移動する。

出発時は、村長はじめ村職員、支援活動にあたる村民、村の施設に残留している避難者など多くの人々が、集団避難者に皆さんが一日でも早く村に戻れることを祈り、また行路と現地での無事を願って、バスを見送った。

随行する村職員は5日間交代のシフトで対応する。

2、車の燃料

これまで全く入ってこなかった燃料は、まだ制限はあるものの少しずつ供給されはじめてきた。しかし、自主避難を希望している村民の中には、移動手段である車のガソリンが足りなくて移動を制限されているケースがあるため、村内のガソリンスタンド3店で給油できるチケットを村から住民向けに交付した。

燃料代金は自己負担となるが、1台あたり普通乗用車20L、軽自動車13Lと数量を決め、スタンド3店を地区割りして多くの希望者にいきわたるよう配慮し、混乱を回避した。スタンドではスムーズに給油が進んでいる。

3、医薬品、医療

クスリ、特に慢性疾患など持病をもつ高齢者などのクスリの入手が困難になっている。

薬の対応ができなくなった村診療所は19日午後から21日まで休診となり、また、診療所に隣接する薬局も在庫がなくなり閉店しているため、となりの川俣町や福島市などへ車で行くことになる。しかし、開いている薬局の情報が少なく、すぐにたどり着けないなど、村民はイライラを募らせている。

また、ひとり暮らしの高齢者などを訪問する保健師の数は3人と少なく、保健活動分野のマンパワーを必要としている。

4、放射線数値と対応

数値は「20マイクロシーベルト」付近。

屋内退避地区の30Kmを超える範囲でも、高い数値が報道され、住民の不安は募る一方。

村対策本部から県へ随時判断を仰いでいるが、タイムリーでなく、原発事故被災地の現場は混乱が生じている。

ヨウ素剤12,000個を確保も、19日現在住民投与は未実施。

5、今後の対応

<決定事項>

- ・明日20日午前、第2陣の集団自主避難を行う。
- ・集団避難先は、栃木県内の指定施設。
- ・計画輸送人数は300人程度を想定している。本日19日夕刻まで行政区長を通して集約する。
- ・輸送は大型バスで、陸上自衛隊福島駐屯、村スクールバス、民間バスを手配。

- ・村外からの「新たな避難者」を村の施設には受け入れすることができないため、村外へ移動していただくことを願います。
- ・ただし、村内の屋内退避地区である30Km圏内にある村民の希望があれば、「いちばん館」に受け入れる。

- ・自主避難を希望する住民については自己責任で避難してほしい。

平成23年3月20日（日）14:00 現在

■福島県飯舘村の震災・原発被災の現状

災害対策本部長（飯舘村長） 菅野典雄

1、集団避難の状況

本日午後1時、第2陣の集団避難希望村民等の移送を実施した。集団避難者の中には、屋内退避地区である以外の村民も多数いる。

第2陣の集団避難者は202人。自衛隊準備のバスと村スクールバスで、スクリーニング地点の松川サービスエリアに向かい、スクリーニング後に鹿沼市に移動する。新たに村職員2名が随行した。

2、村外の避難者受け入れを終了した

隣接する南相馬市が市民の希望者を対象に集団自主避難していることや、自治体が新たな場所で自治体に住所があった住民の避難場所を確保する動きが広がっていることを踏まえ、一時約1,200人の村外からの避難者を受け入れてきたが、本日正午をもって受入を終了し、新たな村外避難民の受け入れ施設は閉鎖した。

3、生活物資、医薬品、医療

大根、キャベツ、白菜、ごぼう、エリンギやマイタケなどの野菜は、茨城県の民間業者の支援で約6tを確保し、特別養護老人ホームや独居高齢者などに配布できる見通しとなった。

しかし、医薬品はまだ確保の見通しが無い。特に高齢者の常備薬が入手困難である。

福祉担当の職員3人で、ひとり暮らし高齢者の訪問サービスを実施しているが、職員は見えない放射能への恐怖や不安を持ちながら、公用車で戸戸訪問している。

4、放射線数値と対応

午後1時「15μSv」とやや下がった値が出ている。

午前中のグラフは添付のとおり。

午後1時ごろ、県検査員が屋外と建物内部の現地実測を行っている。建物内部では「1.9～2.0μSv」という低い数値であった。

ヨウ素剤の住民投与は20日午前現在未実施。

5、今後の対応

＜決定事項＞

- ・ 明日予定していた集団自主避難は、希望者がいないので、本日で終了する。
- ・ 村外からの「新たな避難者」の村施設受け入れも本日午前で終了する。
- ・ 屋内退避地区圏内にある村民が避難を希望する場合、自己責任避難の対応をお願いする。
- ・ 自主避難などで遠隔地に移動した村民が医者にかかる場合の利便を図るため、「遠隔地用健康保険証」を交付する。

3月20日

午前8時、役場第一会議室



3月20日

19日に採取した村産の原乳から、放射性ヨウ素を1kgあたり5,200ベクレル検出。

村が自主的に福島県原子力センター福島支所に村水道水を持参したところ、簡易水道の水から放射性ヨウ素を1kgあたり965ベクレル検出。

県が県産露地野菜全ての出荷自粛及び原乳の出荷・自家消費自粛要請。

3月21日

国が村水道水から高濃度の放射性物質を検出したと発表、水道水の摂取制限発令。

平成23年3月21日

村民各位

飯舘村長 菅野典雄

簡易水道の水及び井戸水・沢水の飲用自粛のお願い

村では、3月20日村の簡易水道（滝下浄水系）の水質について、福島県原子力センター福島支所において検査を実施したところ、基準値（正常値）300ベクレル《ベクレルとは、放射性ヨウ素を表す単位です》を上回る965ベクレルが検出されました。

この基準は、飲用水としては好ましくないので、飲用を控えるよう国・県より指導を受けたところです。また、簡易水道以外の井戸水・沢水についても同様の測定値が推測されますので、飲用についてはできるだけ控えるようお願いします。

なお、代替の飲用水については、福島県災害対策本部より、ペットボトルによる給水がされますので、本日役場職員が全家庭に配付します。

村民の皆様には、当分の間何かとご不便をおかけしますが、何卒ご理解をいただきたくお願い申し上げます。

【注】飲用水としては、適当ではありませんが、洗濯や洗い物等については、一切影響がありません。

午後6時30分、役場第一会議室



3月22日

村内で飲用水配布



職員が自衛隊とともに飲用水100t（1人1日3ℓ×8日分）を集会所へ運搬。飲用水不足時には区長を通して配布。

■福島県飯舘村の震災・原発被災の現状

災害対策本部長（飯舘村長） 菅野典雄

1、給水

昨夜遅く、厚生労働省健康局水道課から「飯舘村における水道水中の放射性物質の検出」の通知を受け、今朝6時に全職員を緊急招集し全戸に水を配給した。

住民への水の供給量は10t。職員が各戸を巡回し在宅人数を確認して、一人当たり500mlのペットボトル6本＝3リットルを配達し、午後5時に作業をようやく終えた。

明日も一人当たり約10リットル、総量30tの全戸供給を計画している。

2、水質

村内に点在する4箇所の簡易水道配水池から給水している水のBqベクレル値についても、今日、県が分析のためサンプルを採水した。今後3日間、給水をサンプリングし分析にあたる。

3、放射線の値

役場周辺では、12μSv付近まで下がってきた。

4、医薬品、医療

村内の薬局ではまだ薬を確保できていないため、隣接する川俣町や福島市の医療機関に頼っている。

ヨウ素剤については「20マイクロシーベルト」以下の値では緊急性がないものと判断し、配付を行っていない。

5、鹿沼市の状況

20日までに集団自主避難者510人が鹿沼市の体育館に避難したが、親戚や知人を頼って、今日まで約70人が鹿沼市から首都圏などに退出した。

避難者は鹿沼市役所の保健師からの看護を受けるなど、落ち着いた生活をしている。村職員3名が避難者支援にあたっている。

6、今後の対応

＜決定事項＞

- 遠隔地に移動した村民の医療保険を考慮し、引き続き「遠隔地用健康保険証」を交付する。
- 村民を対象に、被爆の有無を調べる県の「スクリーニング」が、22日と23日に「いちばん館」で実施される。村は村民の移動手段として各地区にスクールバスを巡回させる。

3月22日

自衛隊による給水支援



3月22日

いちばん館で県がスクリーニング検査実施



放射線への不安に應えるため22日～23日に実施されたこの検査では、1,330人が検査を受け全員が異常なし。

■福島県飯舘村の震災・原発被災の現状

災害対策本部長（飯舘村長） 菅野典雄

1、給水

今日は、村内に残っている世帯に約100t、一人あたり24リッター8日分に相当する水を供給した。

2、水質

滝下浄水場の給水は20日に965Bqベクレルあったが、21日は492Bqに下がった。

3、放射線の値

役場周辺では、16μSv付近で推移している。

4、薬

明日以降もいつ入荷するのか、薬の補給の見通しがたっていない。隣接する川俣町の病院でも軽度の患者の受け入れしかできないなど、医療態勢が充分でない。

5、鹿沼市の状況

22日現在、鹿沼市総合体育館に避難を受け入れていただいている村民は約310人で、一部の人は首都圏などへ退出の動きがある。村職員3名が現地対応にあたっている。

6、今後の対応

＜決定事項＞

- 被爆の有無を調べる県の「スクリーニング」は、明日の23日も「いちばん館」で実施される。
- 医者や買い出しに行きたいが燃料が足りないとの要求にこたえ、明日、全戸に、世帯1台限定で、1台あたり給油量約13リッター、2千円分ガソリンの給油カードを交付する。

村民各位

飯舘村長 菅野典雄
(公印省略)

飯舘村非常用住民給油カードの配布について

3月11日の東日本大震災の影響から、物資の流通が不安定となり、本村においては特にガソリンの供給が逼迫しています。現在、約半数の村民が村外に避難しておりますが、なお半数の村民が村内に居住しており、ガソリンの不足から日常生活にも支障をきたしています。ついで、以下により「非常用住民給油カード」を配布することにより、各給油所の混雑を防止しつつ、生活に必要なガソリンの円滑な供給に努めることとします。

記

- 配布は各戸1枚とします。
- 1回につき、ガソリン2,000円分の給油を受けられます。
- 使用できるガソリンスタンドは、当面JAそうま（ガソリン）とします。他の給油所は軽油、灯油のみです。（ガソリンの在庫がありません）
- 23日・24日の営業時間は8時30分～12時00分とします。
- 給油カードは、23日・24日については2日間のうち1回だけ給油できます。
- 給油カードは、今後も活用する予定ですので、大切に保管してください。

※ ガソリンの供給は徐々に改善しております。村でもガソリンの確保に努めておりますので、冷静な対応をお願いいたします。

飯舘村非常用住民給油カードの使用方法

- 非常用住民給油カードには、行政区・氏名・車両のナンバーを必ず記入願います。
- このカードで給油できる車は、1世帯につき1台です。



福島民報新聞 H23・3・22

平成23年3月23日（水）10:00 現在	
■福島県飯舘村の震災・原発被災の現状	
	災害対策本部長（飯舘村長） 菅野典雄
1、水道の放射性物質	県の調査で、千葉県の日本文学センターに村内4ヶ所の浄水場の給水水质を依頼していたが、22日データが届いた。 滝下浄水場が430Bq浄水場ベクレル、花塚浄水場450Bq、田尻浄水場290Bq、大倉浄水場は検出されなかった。
2、放射線量	13日の爆発事故から10日目となる、23日朝の役場周辺の値は12μSv付近。
3、スクリーニング	希望者対象にいちばん館で実施中。22日の受検者765人。一部の人もクツ底からやや高めの数値が出ているが、全て異常なしと判定された。
4、医薬品、医療	県立医大から、医薬品供給と在宅診療サポートの申し出があった。
5、給水	昨日100t、一人あたり24リッター、8日分を供給した。補給を受けた在庫50tはJAの倉庫に保管した。
6、燃料	村民向けガソリンは、世帯1台限定で、1台あたり2千円、給油量約13リッター分の給油カードを行政区長を通じて交付した。 給油できるスタンドはJAそうま飯舘総合支店の1店舗で、残る3店舗ではガソリンを確保できていない。灯油と経由は北原商店と荒木屋で販売される。
7、食料品、生活物資	Aコープは23日に営業する。しかし商品の入荷が少なく限定的である。
8、鹿沼市の状況	22日現在、鹿沼市総合体育館の避難村民は約320人。南相馬市など村外からの118人も同体育館に避難している。鹿沼市では、医師や薬剤師が常駐させて診療にあたっている。 また、鹿沼市から、避難の児童生徒を鹿沼市内小中高へ受け入れたいと伝えられた。避難者から「ふるさとの情報ほしい」と要望あり、エリア内に店舗をもつヨーク

ベニマルの協力で「福島民報」新聞が避難所に届けられる見通しである。	
現地駐在村職員の交代要員として、本日3名が現地に向かう。	
9、今後の対応	<決定事項> 25日午後1時30分から「福島原発事故の放射線健康リスクについて」の講演会を「いちばん館」で開催する。講師は、長崎大学大学院教授の高村昇氏。各地区から会場まではスクールバスを巡回する。 - 災害対策本部に、乾パン、缶詰などの非常食や、6t程度の野菜などの救援物資の在庫があるため、25日午後から「いちばん館」で、一人暮らし高齢者はじめ食品を必要としている村民に配布する。



▲村内のようす

3月23日 村民向け「非常用住民給油カード」による供給開始

り、カードによる供給が実施されました。タンクローリーによる燃料供給が始ま

いたてむろ
No. 1001

非常用住民給油カード

行政区 _____ 氏名 _____

車両ナンバー

福島

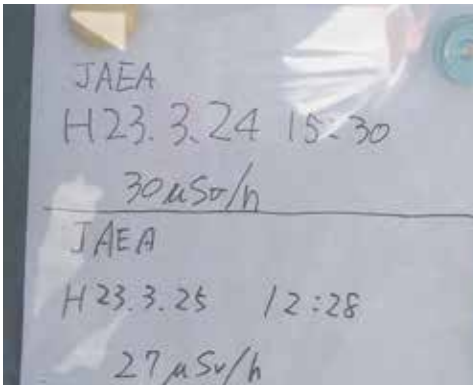
平成23年3月23日（水）19:30 現在	
■福島県飯舘村の震災・原発被災の現状	
	災害対策本部長（飯舘村長） 菅野典雄
(1) 土壌から放射性物質が検出された件	- 文科省の土壌検査結果が発表され、セシウム、ヨウ素の値が高いというニュースがWEBで流れた。 - 調査を実施していたことは把握している。 - 事前に国、県からの検査結果の報告がないままにニュースが流れたため、マスコミや住民からの連絡対応に問題が生じている。
(2) 放射性物質の状況	①大気 - 役場周辺のモニタリングポストの数値：13.0μSv（19:00現在） ②水道水 - 厚労省が調査している「滝下浄水場」の3回目測定値は344Bq/リットルと漸減中。
※浄水場は村内4箇所あり。	
地区の構成	



▲県による家畜スクリーニング検査



▲文部科学省が長泥地区に設置した線量計を指さす村民



③村民へのスクリーニング調査

- 希望者に対してスクリーニングを2日間にわたって実施。
- 22日に765人、23日に565人の計1,330人が検査を受けた。
- 全員、基準値をクリアした。

(3) 村の生活

①飲料水

- 飲料水の初回配付については一段落した。
- 3/22に簡易水道の飲用規制対策として、国から160tの水（ペットボトル）を調達し、全戸配付を終えた。
- 既に水の残りは30tとなっており、追加で100t程度の水補給を要望している。

②ガソリン

- 昨日、全戸に対して世帯1台限定、1台あたり13リッター（2千円分相当）の給油を行うための給油カードを交付した。
- ガソリンの残留量が予想を下回ったため、700人に対して給油ができずに混乱が生じた。
- 但し、ガソリンが確保でき、明日中に700人への給油ができる見込み。
- 村に戻ってきている世帯に対しても供給できる見込み。

③食料

- 25日に実施する講演会（福島原発事故による放射線健康リスクについて）において、支援物資の食料を村民に配付する予定。

④インフラについて

- 村内道路61箇所に破損発生。国に改修の要望を上げるべく、情報精査中。
- 原野の屎尿処理場が水没し、半年は再生できない見込み。川俣に処理を依頼することで調整中。

④帰村者

- 村に戻ってきている人が増えており、この確認作業を進めている
- 水の配給時に、区長から報告して貰うようにしている。

⑤特養老人ホーム

- 不足していた経管栄養食の一部（OS1）が補給された。

(4) その他

- 24日、10時から議会「東日本大震災並びに福島第一原発の災害対策特別委員会（全員協議会）」を開催予定。
- 鹿沼市の避難所の交代職員が今日現地に向かい、明日引き継ぎをする。

■福島県飯館村の原発災害の現状

災害対策本部長（飯館村長） 菅野典雄

（1）今日の出来事

本日午前「松下忠洋 経済産業副大臣」、続いて「志位和夫 共産党委員長」、午後には「谷垣禎一 自民党総裁」が来村し、村長、村議と会談。国の直接的な支援体制を早急に構築することを強く要望した。

○国の把握している情報の出し方の改善、迅速に提供すること。

○放射性物質の調査結果のみならず、具体的な対策にかかる情報提供すること

ー土壌に関わる調査体制の強化、その対策は特に急がれる。

○村の産業に対する当面の支援、補償にかかる方針を早急にまとめ、提示して欲しい。

ー特に農作業の準備の時期であるが、県の指示に基づいて、農家の方々には作付け準備等の延期を依頼している状況にあり、一定の結論を急がたい。

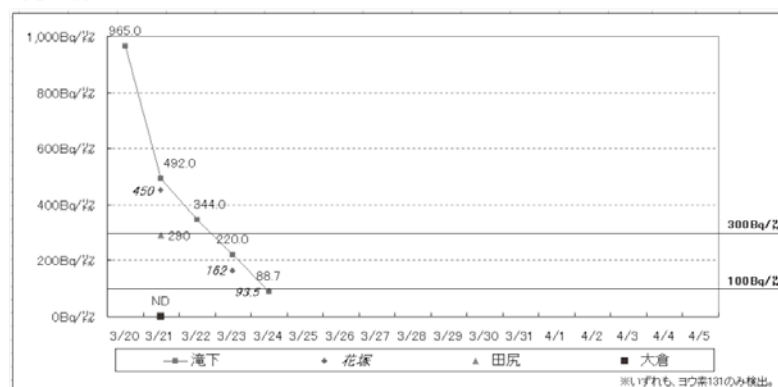
（2）放射性物質の状況

①大気【時系列データは最終ページ】

役場周辺モニタリングポスト（地上1m）： 9.39 μ Sv（17:00 現在、晴れ）

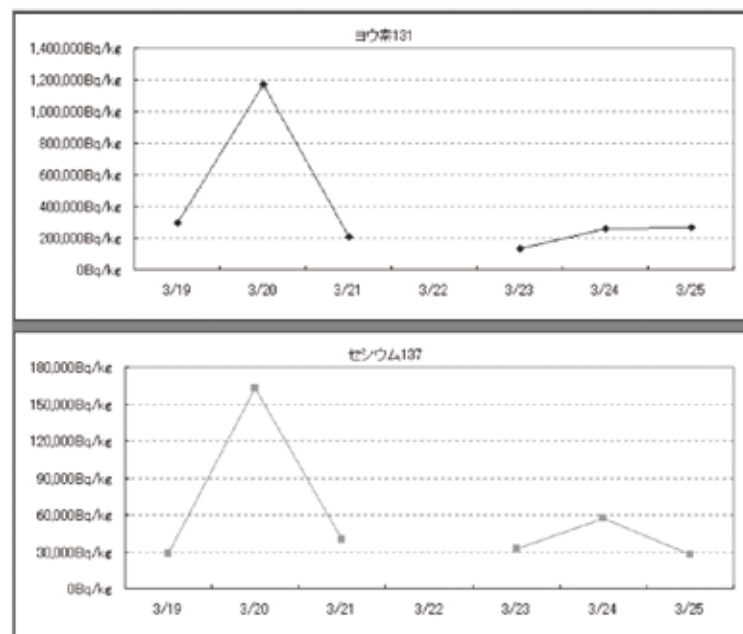
②水道水【グラフ再整理しました！】

3月24日には、水質検査を継続している滝下浄水所、花塚浄水所でも100Bq/リットルを下回った。しかし、2地点については調査を継続していく予定。引き続き様子を見ることとし「飲用水の安全宣言」は見送っている。村民に対しては、これまで通り1日、一人当たり3リットルの飲用水（ペットボトル）を配布することで対応する。



③土壌（文部科学省データ）

本日発表されたデータをもとにグラフを作成。3月20日の値が非常に高くなっている。引き続き、詳細な調査を実施する。



各浄水所と給水エリア

（3）集団自主避難（鹿沼市総合体育館―フォレストアリーナ―避難所）の状況

3月20日の集団自主避難完了日がピーク（438人）であったが、漸減傾向にあり本日17:00 現在391人となっている。うち小・中・高校生が73人となっている。

3月28日

第3回村議会東日本大震災並びに東京電力福島第一原子力発電所事故災害特別委員会



原発の現況や農作物作付けについて話し合わせ、JA そうま代表も参加しました。

3月28日

支援物資の仕分け作業



カップめんやクラッカーなどの食料を箱から出し、村民に配布するために仕分けをしました。

3月28日

京都大学・今中哲二氏らが組織した飯館村周辺放射能汚染調査チームによる放射線サーベイ活動実施



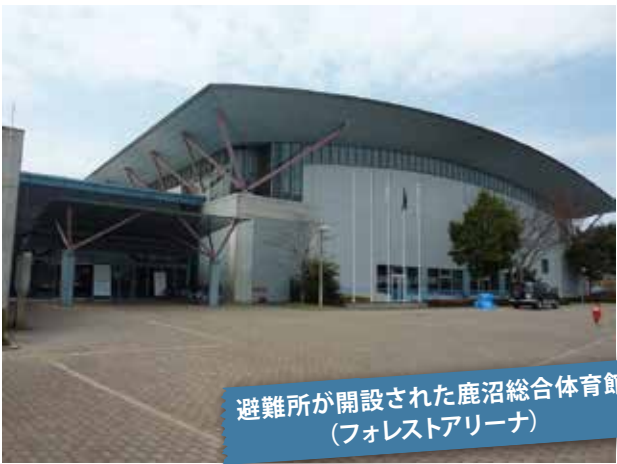
3月29日～30日
子どもの甲状腺被ばく検査



15歳未満の子どもの対象に役場内で実施。受診した全員が異常なしと診断されました。

THANK YOU KANUMA !!

お世話になった
鹿沼避難所
(2011年3月19日～4月30日)



避難所が開設された鹿沼総合体育館
(フォレストアリーナ)



地元ボランティアによる炊き出し

紙芝居を楽しむ避難者



鹿沼市の避難所運営に携わったボランティア団体の方々



テレビ観覧コーナー



かめまつ使で女子プロゴルファーの藤田幸希選手から自転車100台寄贈された。左端は佐藤信鹿沼市長



体育館内に設置された避難者向け掲示板



避難者の中から行政区ごとに代表を決めて行われた会議



ガッツ石松氏が来訪。左端は鹿沼市長



小中学生向け学習プリント無料配布コーナー



放射線に関する勉強会

放射線対応とその影響について
東京大学医学博士
稲恭宏氏

THANK YOU KANUMA !!

国際原子力機関（IAEA）が、村内の土壌から IAEA が定める避難指示基準の約 2 倍の放射性物質を検出したと発表。

3月31日
第4回村議会東日本大震災並びに東京電力福島
第一原子力発電所事故災害特別委員会



▲当時の手書きメモ

(「ベルリ」時止、国際原子力機関(IAEA)は三十日、東日本大震災で事故を起こした東京電力福島第一原発から四十キロ北西の飯館村で、IAEAの検査船を起す旨のIAEの放射性物質が検出されたとし、日本政府に避難地域の見直しを要請している。当初は避難の必要はないとの見だったが、IAEAからの指摘は議論を巻き起こした。

IAEAによると、三月一日から十六日にかけて、第一原発から約二十五・五八キロの九倉谷で採集した土壌サンプルに検出されたヨウ素¹³⁷とセシウム¹³⁷の量は測定できるレベル以下であった。

竹富町では避難区域拡大は「飯館村の放射線量が健康に問題のある数値を示さない」と、村民の安心につなげていくという調査の結果として、村内の調査地点を増やして、調査の密度を高めて住民が避難先へ移り住む際の判断材料となるよう、放射線物の種類と量を調べることに決めた。

事実に、簡明の「大答」
返つたと答へる。

日、既に日本で活動し、分析する専門家を派
つて、その放射線測定や、放射性物質の放射線
分析の専門家に加へ、
海水の放射性物質調査を、
長期なら健康被害も、
枝野男官房長官は、
三十一日午前の記者会
員で、西園獅子王機關
（I.A.E.C.）が佐賀村
内の土壌から高濃度
について、「誠にそう
したの（状態）では
ない」との認識を示し
た。
その一方で、長期間
そうした土地の地域に
いると、その影響で健
康被害の可能性が生じ
る性のものなので、
しっかりと把握し対処し
ていかなければならな
い」と述べ、周辺地域
での放射線調査を強
く強調した。

また、枝野長官は、
「土壌汚染が、人々
に影響を及ぼす可能
性を、長期間になら
ないよう全般的にい
う方を進めたい」

放射性物質
飯館の土壌基準値超え
IAEA「避難指示に相当」

元	
相当	

A photograph of four students (three men and one woman) sitting in a row in a classroom. They are all wearing dark business suits. The man on the far left is looking down at a paper in his lap. The man next to him is looking forward. The woman next to him is looking forward. The woman on the far right is looking forward. In the background, there is a large framed painting of a landscape and a large map or poster pinned to the wall.

A group of four men are seated around a large wooden conference table in a meeting room. They are engaged in a discussion, with one man pointing at a document. The table is covered with various papers, including a large architectural drawing. On the wall, there is a framed calligraphy scroll and a small poster. The room has large windows with white curtains.

高濃度地区は避難を

飯館村に支援チーム提案

飯館村に原発災害などの助言を行っている村後方支援チーム（代表・糸長浩司/日本大生物資源科学部教授）は四日、村に「土壌放射線の高濃度地区住民は当面、低濃度地区に避難する」など四項目を提案した。

村は、三歳未満の乳幼児、妊婦の希望者を村外の旅館などに一月程度避難させるほか、南部の比曽、蔵平、長泥の三行政区の希望者を役場そばの村活性化センターなどに避難させる方針。六日に開く村議会災害特別委員会でも承認を得る。

支援チームは三月二十八、二十九の両日、飯館村周辺放射能汚染調査チーム（代表・今中哲二/京都大原子炉実験所助教）の協力で村内を調査した。村南部に放射線の高い地点が集中、比曽地区の畑では毎時三〇マイクロバット、九十日間の積算被ばく量は、原子力安全委員会が定める「コンクリートの屋内に退避するか避難すること」とされる九〇マイクロバット以下とされている。

支援チームの提案は①道路・建物敷地での徹底的な除染を国または県に要請する②南部の土壌放射線の高い地域住民は村外、村内の比較的低濃度の低い地区に当面避難する③子ども・妊婦は村外避難が望ましいが、最低でもコンクリート建物内に避難する④屋外での農作業などは極力控える一としていいる。

新聞 H23.4.5

2011 年 (平成 23 年) 4 月 27

提言書

平成 23 年 4 月 5 日

内閣総理大臣 菅 直人 殿

飯舘村長 菅 野 典 雄

1、飯舘村について

飯舘村は、阿武隈山系北部の高原に開けた自然豊かな山紫水明、風光明媚の美しい村である。本村の農業の主要作物は、水稻・畜産・葉たばこであり、複合経営の柱である畜産分野では「飯舘牛」のブランド化を推進し、園芸分野では高冷地の条件を活かした、きゅうり、インゲン、トルコギキョウ、リンドウ等のブランド化を推進して来た。

さらに、本村の総合振興計画において、人と人が「お互いさま」の心を持って接しあう飯舘流スローライフ「までいライフ」を推進し、昭和 62 年の自治大臣表彰を初めとして、平成 3 年国土庁長官表彰、平成 9 年農林水産大臣表彰、平成 17 年総務大臣賞、平成 20 年厚生労働大臣表彰、平成 21 年農林水産大臣賞など、本村の活動を賞する全国表彰を受賞してきた歴史がある。

2、福島第一原子力発電所の事故による本村の被害について

本村は、原子力安全委員会の防災指針に示された重点地域の基準(原子力発電所から半径8～10km)を大きく超える28km～47kmに位置しながら、平成 23 年 3 月 12 日以来の福島第一原子力発電所の度重なる水素爆発事故による放射性物質の降下をきっかけとして、諸々・多大なる被害を蒙っている。

すなわち、目に見えない放射能による被曝リスクの増大と村民の精神的苦痛は言うまでもなく、これまで国を初めとする様々な機関が調査した情報が、本村に対する事前の報告・相談なしに一方的に公表されとともに、単に「数値が高い」ことのみを強調・報道され、これまでの村の活動とは全く逆の立場で「世界の飯舘村」になってしまったことによる村民の不安と心労は計り知れないものであり、この風評被害が将来に渡って甚大なものとなることは、本村が最も憂慮する事態である。

3、本村は反核の旗手になるつもりはない

本村は、避難指示区域のはるか外にありながら、気象・地形の影響により、現時点で最大の放射能汚染被災地となっているが、本村はこの事故のみをきっかけとして「反核の旗手」になるつもりはない。

むしろ飯舘村が、原子力事故における放射能汚染被災地の範となって、復旧・復興を果たすことこそが、福島県を初めとする東北地方、さらには日本にとっての最大の利益となり、もって世界の範となるものと考える。

4、世界の範となる復旧復興の村へ

世界の範となる復旧・復興を果たすためには、国がこの村を放射能から蘇らせるモデルケースの村として提起し、産・官・学が一体となって前例のない施策を積極的かつ迅速に実施して農村としての早期再興を果たしていくことが必要であり、この取り組みが今後の日本政府にとってのプラスにつながるものと考える。

そのためには、国を挙げて英知を結集してセシウム137などの半減期の長い放射性物質の他、原発事故により飛来した全ての放射性物質の水、土壌からの完全除去を実現することが急務であり、この実績が各地の原発立地地域の今後のあり方に関する大きな指標となるものと考える。

5、復旧・復興に係る今後の支援について

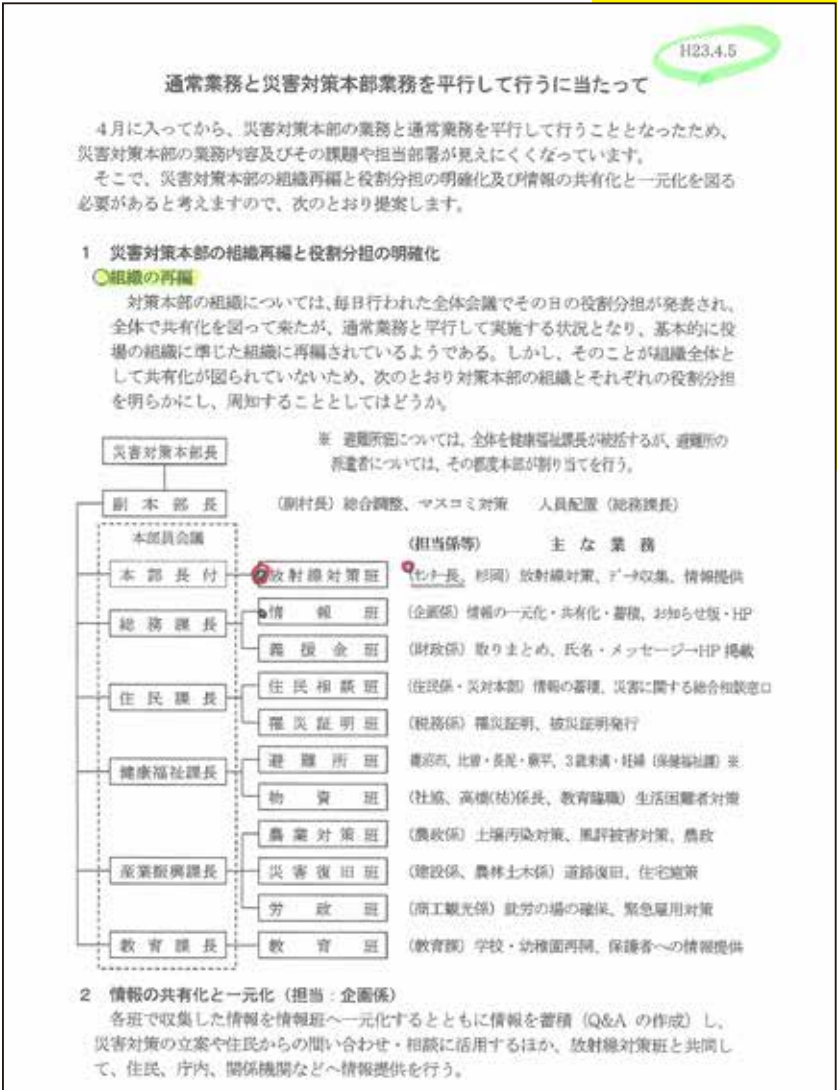
6, 000人あまりの全ての飯舘村民は、今回の原発事故により直接的な被曝被害を蒙るとともに、風評被害による経済的打撃を受けて、日に日に疲弊の度を増しているが、原発事故が起こる前の生活を早く取り戻すことを切望しており、本村に生活基盤を置きつつ世界の範となる復旧・復興を果たすことを望んでいる。

そのために、国、原子力安全・保安院、原子力安全委員会はエリアに拘らず、土壌改善事業や、全ての村民に対する生活支援、避難者支援など、あらゆる支援策を早期に実施し、本村をモデル的復旧・復興事業の対象地として指定することを強く要請する。

県農林水産部が土壌調査の結果を公表。

前田地区、長泥地区の水田から基準値（5,000 ベクレル）を超える放射性物質が検出される。

▲震災業務をすすめるための分担リスト



福島県内各市町村の土壌における放射性物質の測定結果(水田・転換畑)						
平成23年4月6日現在 福島県農林水産部						
管轄農林事務所	市町村名	サンプリング場所	地目	Cs-134 (Bq/kg乾土)	Cs-137 (Bq/kg乾土)	Cs-134+137 (Bq/kg乾土)
相双	南相馬市	鹿島区山下	水田	358	423	780
	南相馬市	原町区深野	水田	499	545	1043
	相馬市	大坪	水田	304	342	646
	相馬市	成田	水田	297	337	634
	新地町	小川	水田	407	484	891
	飯舘村	前田	水田	4712	4932	9644
	飯舘村	長泥	水田	7308	7723	15031
	いわき市	四倉町長友	水田	223	263	486
いわき	いわき市	平上神谷	水田	107	125	232
	いわき市	渡辺町洞	転換畑	145	162	307
	いわき市	小川町下小川	転換畑	91	71	162

※合計値は、ラウンドのため内訳と一致しない場合がある。

4月6日

逢坂誠二総務大臣政務官 来庁



農家の皆様へ

平成23年4月6日
福島県農林水産部

○ 県では、3月31日及び4月1日に県内の農用地の放射性物質の状況を把握するための調査を行いました。

○ その結果は別紙1のとおりです。この調査結果について、県のアドバイザー等専門家のご意見をいただきながら検討した結果、別紙2の市町村についてはさらに調査を行う必要があると判断しましたので、詳細調査を実施し、4月12日を目途に調査結果をお知らせします。該当する市町村ではもうしばらく様子を見ていただくようお願いいたします。

○ なお、国においては近日中にイネの作付に関する今後の方針を発表すると聞いておりますので、県といたしましては、これを踏まえ対応してまいります。

○ また、屋内待避を指示されている浪江町、広野町、葛尾村、川内村につきましても調査し、4月12日を目途に調査結果をお知らせします。

○ 露地野菜では、国から平成23年3月25日付けで「放射性物質が検出された野菜等の廃棄方法について」により、すきこみ及び焼却は望ましくないこと等の指導がありますので、次の情報提供があるまでお待ちください。

○ 県では、今後ともモニタリング検査体制の強化を図るなど、本県農産物の安全性を確保するため万全の対策を講じてまいります。

▲4月6日、県から届いた文書

4月7日

第6回村議会東日本大震災並びに東京電力福島第一原子力発電所事故災害特別委員会



農作物の作付けについて話し合いが行われました。

平成23年度
第1回臨時行政区長会議

日時 平成23年4月7日(木)
午後1時30分～
場所 役場2階 委員会室

1. 開会

2. 村長あいさつ

3. 行政区長会長あいさつ

4. 議事

5. 閉会

(1) 災害取組の経過（3/22区長会以降）について

(2) 放射能測定値について

(3) 土壌調査結果に基づく農作物の作付について

(4) 乳幼児・妊産婦の一時避難について

(5) 比曽、長泥、蔵平地区の一時避難について

(6) 鹿沼市の避難所状況について

(7) 村税等の納期限延長について

(8) 幼稚園、小、中学校の川俣町移動について

(9) いいいてクリニックの診療状況について

(10) 物資ステーション及び運営に伴う協力をお願いについて

◇その他

① 火災予防の徹底について

・野焼きをしない

・火気の取扱については十分注意を払う

・火の後始末をしっかりと行う

4月7日

第1回臨時行政区長会議



東北地方太平洋沖地震に係る飯館村の状況

○ 人的被害

・死者1名、軽症1名(70歳代女性)

○ 物的被害

・路肩陥没、土砂崩れなど、村道、農道、林道合わせて約70か所

・家屋は、屋根損傷など軽微な被害多数

・水道管破損、全村断水

・全村停電、電話不通、携帯電話不通。

○ 避難者の受入

(3月20日(正午)までの受入状況)

・まていな家、いちばん館、草野小学校、臼石小学校、飯種小学校、やすらぎ

総勢1,300名(南相馬市、双葉郡の方々が多数)

○ 村の初動対応及び推移

3月11日 14:46 発災 14:55 飯館村災害対策本部設置

3月12日 避難者受入(まていな家、いちばん館)電話不通、停電

3月13日 16:30 対策本部の電力復旧、一部水道復旧、草野小開設

3月14日 水道復旧(全村)、電力復旧(全村)、飯種小、臼石小開設

3月15日 携帯電話回復(全村)、一般電話(一部不通)

3月16日 一部燃料(ガソリン、灯油類)確保 やすらぎ開設

3月17日 飯種小開設、県より2名派遣される。

3月18日 3月定例議会閉会、県の幹線で希望者の一時集団避難決

3月19日 臼石小、草野小開設、栃木県鹿沼市へ一時集団避難

3月20日 いちばん館開設、栃木県鹿沼市へ一時集団避難(第2団)

3月21日 簡易水道等飲料水摂取制限、ペットボトル等飲料水緊急配給

3月22日 区長会、飲料水緊急配給、スクリーニング検査

3月23日 スクリーニング検査、全世帯に非常用給油カード発行

3月24日 議会災害対策特別委員会、支援物資配布

3月25日 支援物資配布、放射能講演会、村消防団対策本部解除

3月26日 飲料水等寄附対応

3月27日 国会議員多数来庁、土壌調査準備

3月28日 県・国による土壌調査、教育委員会、校長会

3月29日 支援物資配布、甲状腺被爆検査

3月30日 甲状腺被爆検査、幼小中学校保護者説明会、

3月31日 両診療所歯科先生退任式、IAEAの土壌検査発表

4月1日 役場新採用辞令交付、簡易水道基準値以下になる。

4月2日 支援物資受付

4月3日 支援物資受付

4月4日 議会災害対策特別委員会

4月5日 支援物資受付

4月6日 比曽・長泥・蔵平住民への放射能講演会

4月7日 議会災害対策特別委員会、行政区長会

○ 幼稚園、小・中学校の状況

3月中臨時休園、休校

4月20日から川俣町(川俣幼、川俣中、川俣高校)に移行

第1回臨時行政区長会議で配布された資料から

乳幼児を抱える家庭・妊産婦の方へ

平成23年4月7日
飯館村

飯館村では、今回の原発災害による村内の環境放射線量等の状況を考慮し、以下の方を対象に福島市内の旅館・ホテル等への一時的な移動を御案内しておりますので、希望される方は別添の意向調査票にご記入願います。

※この制度は、福島県が今回の震災等の被災者を対象に実施しているものであり、飯館村では、この制度を活用し今回の一時的な移動を実施しようとするものです。

＜今回の一時的な移動の対象となる方＞

① 3歳未満のお子様を抱える家庭

② 出産を控えた妊産婦がいらっしゃる家庭

乳幼児・妊産婦等の旅館・ホテル等への一時的な移動について

1 対象者

村内に住所を有する3歳未満の乳幼児及び保護者(1名)並びに妊産婦のうち、旅館・ホテル等への移動を希望される方

※上記事実が確認できるもの(母子手帳等)を確認させていただく事がございます。

2 旅館・ホテル等への受入れ方法

(1) 宿泊する旅館・ホテル等を、村と県が調整しながら選定し提供します。宿泊施設を指定することはできません。

(2) 旅館ホテルへの移動は、各自でおこなっていただきます。移動に関する費用は各自ご負担願います。

(3) 旅館ホテル等においては、3食が提供されます。

(4) あくまで緊急的な避難所としての措置であるため、旅館ホテルから受けられる食事等を含めたサービスは一般の宿泊者とは差がありますのであらかじめご了承願います。

3 避難者の経費負担

基本的な宿泊費、食費は無料です。

4 受入れ期間

(1) 4月以降順次受入れを行います。

(2) 旅館ホテルに宿泊できるのは、原発災害の収束など生活環境が安定するまでの一時的な期間です。(3ヶ月程度)

◀福島県の制度を活用し、福島市内の旅館やホテルに設置した乳幼児や妊産婦向けの一時避難所について知らせる文書

▶環境放射線量の状況を考慮し、村内に設置した避難所への一時避難を呼びかける文書

比曽、長泥、蔵平地区住民の皆様へ

平成23年4月7日
飯館村

飯館村では、今回の原発災害による比曽、長泥、蔵平地区の環境放射線量等の状況を考慮し、以下の方を対象にいちばん館、やすらぎへの一時的な移動を御案内しておりますので、希望される方は別添の意向調査票にご記入願います。

比曽、長泥、蔵平地区住民への一時避難所開設について

1 対象者

比曽、長泥、蔵平地区住民のうち、いちばん館・やすらぎへの移動を希望される方

2 いちばん館、やすらぎへの受入れ方法

居住地としての施設開放であるため、生活全般において住民自らが行うものとする(食事、洗濯、掃除等)

※毎日、保健師による健康管理は行います

3 避難者の経費負担

食料は村から支給となりますが、調理については、施設の調理室を使用し、各自自炊を原則とする

4 受入れ期間

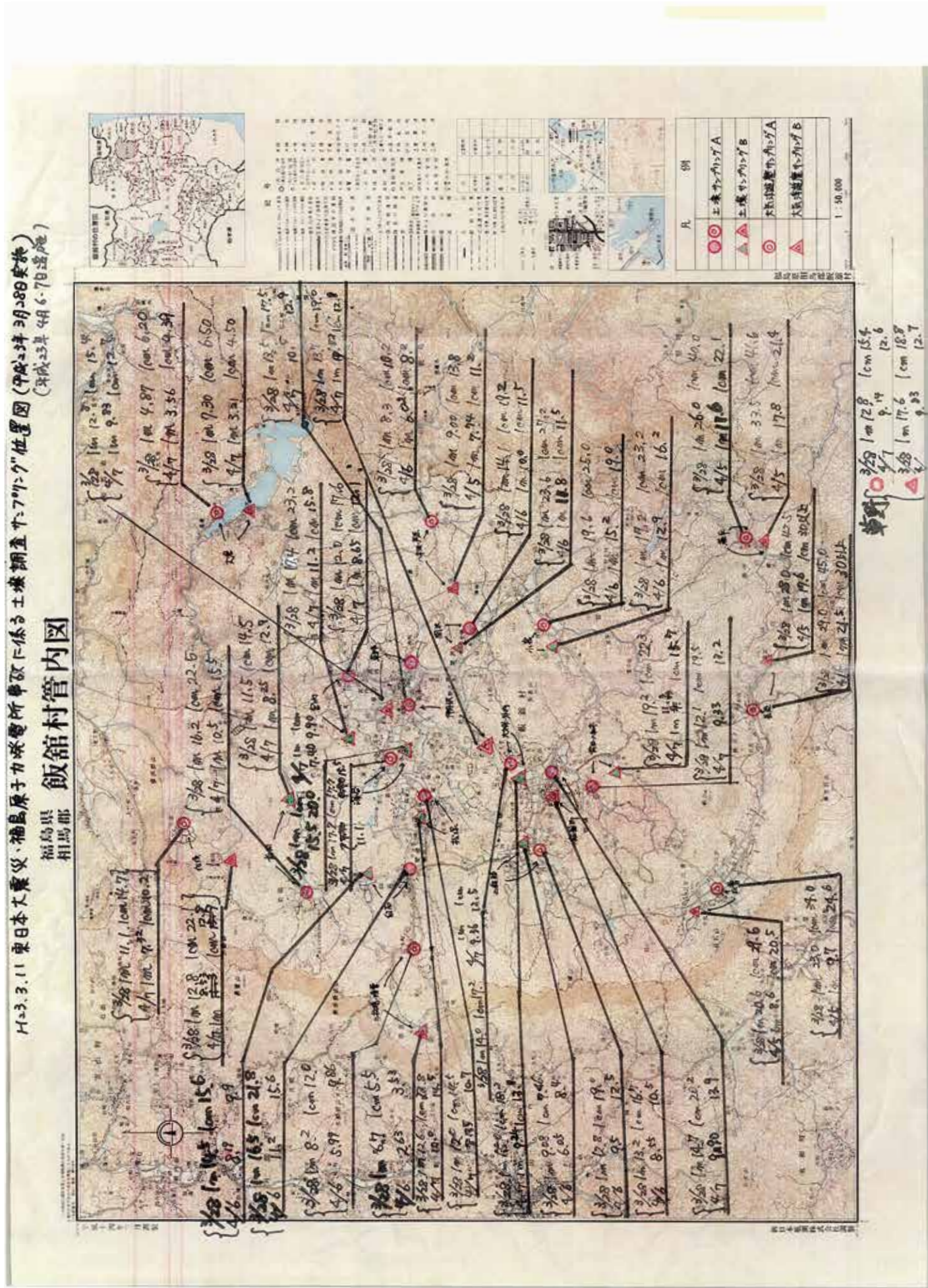
4月13日～1ヶ月間程度

5 申込み期限

4月11日まで

6 申込み先

区長さんに提出してください。



▲3月28日に県が実施したサンプリング調査結果をもとに村職員が手書きで作成した地図

4月9日

鹿野道彦農林水産大臣 来庁



村長と議長が、村からの提言書、要望書を手渡しました。

4月9日

民主党衆議院議員・鳩山由紀夫氏 来庁



4月10日

放射線に関する講演会を保護者向けに開催



飯館中学校体育館で杉浦紳之氏（近畿大学教授・医学博士）による講演会が行われました。

農林水産大臣 鹿野 道彦 殿

福島第一原子力発電所の事故に伴う今後の営農に関する緊急要望書

飯館村は原子力安全委員会の防災指針に示された重点地域の基準(原子力発電所から半径8～10km)を大きく超える28km～47kmに位置しながら、平成23年3月12日以来の福島第一原子力発電所の度重なる水素爆発事故による放射性物質の降下をきっかけとして、諸々・多大なる被害を蒙っている。

つきましては、原子力発電所事故によって生じている様々な被害に対する補償等について、国が責任を持って対処されるよう、下記の通り強く要望いたします。

記

1. 国を挙げて一刻も早く原子力発電事故を収束させること。
2. 米の作付け制限をした地域については十分な補償、支援をするとともに、さらに、他の畜産、野菜、花卉等の作物についても、米の作付け制限同様の補償、支援をすること。
3. 農畜産物の出荷・摂取制限及び風評被害により被害をうけている農業・酪農・畜産等に対し、十分な補償、支援をすること。
4. 風評被害、被災者、避難者の生活の安定を図るため、雇用の確保を着実に実施すること。

平成23年4月9日

福島県飯館村長 菅野 典雄

福島県飯館村議会議長 佐藤 長平

▲福島第一原子力発電所の事故に伴う今後の営農に関する緊急要望書

「計画的避難区域」と「緊急時避難準備区域」の設定について

1. 「計画的避難区域」の設定

- (1) 福島第一原子力発電所から半径20 km以上の周辺地域において、気象条件や地理的条件により、同発電所から放出された放射性物質の累積が局所的に生じ、積算線量が高い地域が出ています。これらの地域に居住し続けた場合には、積算線量がさらに高水準になるおそれがあります。
- (2) このため、国際放射線防護委員会（ICRP）と国際原子力機関（IAEA）の緊急時被ばく状況における放射線防護の基準値（年間20～100ミリシーベルト）を考慮して、事故発生から1年の期間内に積算線量が20ミリシーベルトに達するおそれのある区域を「計画的避難区域」とする必要があります。
- (3) 「計画的避難区域」の住民等の方には大変なご苦勞をおかけすることになりますが、別の場所に計画的に避難してもらうことが求められます。計画的避難は、概ね1ヶ月を目途に実行されることが望まれます。その際、当該自治体、県及び国の密接な連携の下に行われるものとなります。

2. 「緊急時避難準備区域」の設定

- (1) 同発電所の事故の状況がまだ安定していないため、現在、「屋内退避区域」となっている半径20 kmから30 kmの区域については、今後なお、緊急時に

3

屋内退避や避難の対応が求められる可能性が否定できない状況にあります。

- (2) このように、同発電所の事故の状況がまだ安定せず緊急に対応することが求められる可能性があり得ることや屋内退避の現況を踏まえ、現在の「屋内退避区域」で上記1.の「計画的避難区域」に該当する区域以外の区域を「緊急時避難準備区域」とする必要があります。
- (3) この区域の方には、常に緊急時に屋内退避や避難が可能な準備をしておいていただくことが必要です。
- (4) 「緊急時避難準備区域」においては、引き続き自主的避難をすることが求められます。特に、子供、妊婦、要介護者、入院患者の方などは、この区域に入らないようにすることが強く求められます。ご苦勞をおかけいたしますが、ご協力のほどお願いいたします。なお、この区域内では、保育所、幼稚園や小中学校及び高校は休園、休校されることになります。
- (5) 勤務等のやむを得ない用務等を果たすために同区域内に入ることとは妨げられませんが、その場合も常に屋内退避や自力での避難ができるようにすることが求められます。

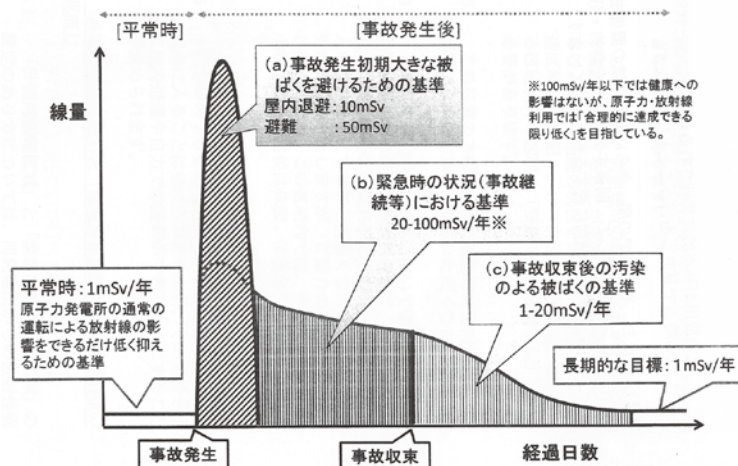
3. 「計画的避難区域」と「緊急時避難準備区域」の設定の見直し

- (1) 「計画的避難区域」と「緊急時避難準備区域」の設定のあり方については、同発電所からの放射性物

4

住民説明会で
配布された資料の一部

放射線防護の線量の基準の考え方



5

放射性物質

7市町村・地域は再調査
県が農用地の土壌調査

浪江津島飯館で高い数値
「健康に大きな影響なし」

浪江町津島地区と飯館村のモニタリング結果(速報値)

調査日: 4月5日

市町村調査学校名	測定値	基準値
浪江町津島地区	2.1	2.0
飯館村	1.8	2.0
浪江町津島地区	2.2	2.0
飯館村	1.9	2.0
浪江町津島地区	2.3	2.0
飯館村	2.0	2.0
浪江町津島地区	2.4	2.0
飯館村	2.1	2.0
浪江町津島地区	2.5	2.0
飯館村	2.2	2.0
浪江町津島地区	2.6	2.0
飯館村	2.3	2.0
浪江町津島地区	2.7	2.0
飯館村	2.4	2.0
浪江町津島地区	2.8	2.0
飯館村	2.5	2.0
浪江町津島地区	2.9	2.0
飯館村	2.6	2.0
浪江町津島地区	3.0	2.0
飯館村	2.7	2.0
浪江町津島地区	3.1	2.0
飯館村	2.8	2.0
浪江町津島地区	3.2	2.0
飯館村	2.9	2.0
浪江町津島地区	3.3	2.0
飯館村	3.0	2.0
浪江町津島地区	3.4	2.0
飯館村	3.1	2.0
浪江町津島地区	3.5	2.0
飯館村	3.2	2.0
浪江町津島地区	3.6	2.0
飯館村	3.3	2.0
浪江町津島地区	3.7	2.0
飯館村	3.4	2.0
浪江町津島地区	3.8	2.0
飯館村	3.5	2.0
浪江町津島地区	3.9	2.0
飯館村	3.6	2.0
浪江町津島地区	4.0	2.0
飯館村	3.7	2.0
浪江町津島地区	4.1	2.0
飯館村	3.8	2.0
浪江町津島地区	4.2	2.0
飯館村	3.9	2.0
浪江町津島地区	4.3	2.0
飯館村	4.0	2.0
浪江町津島地区	4.4	2.0
飯館村	4.1	2.0
浪江町津島地区	4.5	2.0
飯館村	4.2	2.0
浪江町津島地区	4.6	2.0
飯館村	4.3	2.0
浪江町津島地区	4.7	2.0
飯館村	4.4	2.0
浪江町津島地区	4.8	2.0
飯館村	4.5	2.0
浪江町津島地区	4.9	2.0
飯館村	4.6	2.0
浪江町津島地区	5.0	2.0
飯館村	4.7	2.0
浪江町津島地区	5.1	2.0
飯館村	4.8	2.0
浪江町津島地区	5.2	2.0
飯館村	4.9	2.0
浪江町津島地区	5.3	2.0
飯館村	5.0	2.0
浪江町津島地区	5.4	2.0
飯館村	5.1	2.0
浪江町津島地区	5.5	2.0
飯館村	5.2	2.0
浪江町津島地区	5.6	2.0
飯館村	5.3	2.0
浪江町津島地区	5.7	2.0
飯館村	5.4	2.0
浪江町津島地区	5.8	2.0
飯館村	5.5	2.0
浪江町津島地区	5.9	2.0
飯館村	5.6	2.0
浪江町津島地区	6.0	2.0
飯館村	5.7	2.0
浪江町津島地区	6.1	2.0
飯館村	5.8	2.0
浪江町津島地区	6.2	2.0
飯館村	5.9	2.0
浪江町津島地区	6.3	2.0
飯館村	6.0	2.0
浪江町津島地区	6.4	2.0
飯館村	6.1	2.0
浪江町津島地区	6.5	2.0
飯館村	6.2	2.0
浪江町津島地区	6.6	2.0
飯館村	6.3	2.0
浪江町津島地区	6.7	2.0
飯館村	6.4	2.0
浪江町津島地区	6.8	2.0
飯館村	6.5	2.0
浪江町津島地区	6.9	2.0
飯館村	6.6	2.0
浪江町津島地区	7.0	2.0
飯館村	6.7	2.0
浪江町津島地区	7.1	2.0
飯館村	6.8	2.0
浪江町津島地区	7.2	2.0
飯館村	6.9	2.0
浪江町津島地区	7.3	2.0
飯館村	7.0	2.0
浪江町津島地区	7.4	2.0
飯館村	7.1	2.0
浪江町津島地区	7.5	2.0
飯館村	7.2	2.0
浪江町津島地区	7.6	2.0
飯館村	7.3	2.0
浪江町津島地区	7.7	2.0
飯館村	7.4	2.0
浪江町津島地区	7.8	2.0
飯館村	7.5	2.0
浪江町津島地区	7.9	2.0
飯館村	7.6	2.0
浪江町津島地区	8.0	2.0
飯館村	7.7	2.0
浪江町津島地区	8.1	2.0
飯館村	7.8	2.0
浪江町津島地区	8.2	2.0
飯館村	7.9	2.0
浪江町津島地区	8.3	2.0
飯館村	8.0	2.0
浪江町津島地区	8.4	2.0
飯館村	8.1	2.0
浪江町津島地区	8.5	2.0
飯館村	8.2	2.0
浪江町津島地区	8.6	2.0
飯館村	8.3	2.0
浪江町津島地区	8.7	2.0
飯館村	8.4	2.0
浪江町津島地区	8.8	2.0
飯館村	8.5	2.0
浪江町津島地区	8.9	2.0
飯館村	8.6	2.0
浪江町津島地区	9.0	2.0
飯館村	8.7	2.0
浪江町津島地区	9.1	2.0
飯館村	8.8	2.0
浪江町津島地区	9.2	2.0
飯館村	8.9	2.0
浪江町津島地区	9.3	2.0
飯館村	9.0	2.0
浪江町津島地区	9.4	2.0
飯館村	9.1	2.0
浪江町津島地区	9.5	2.0
飯館村	9.2	2.0
浪江町津島地区	9.6	2.0
飯館村	9.3	2.0
浪江町津島地区	9.7	2.0
飯館村	9.4	2.0
浪江町津島地区	9.8	2.0
飯館村	9.5	2.0
浪江町津島地区	9.9	2.0
飯館村	9.6	2.0
浪江町津島地区	10.0	2.0
飯館村	9.7	2.0
浪江町津島地区	10.1	2.0
飯館村	9.8	2.0
浪江町津島地区	10.2	2.0
飯館村	9.9	2.0
浪江町津島地区	10.3	2.0
飯館村	10.0	2.0
浪江町津島地区	10.4	2.0
飯館村	10.1	2.0
浪江町津島地区	10.5	2.0
飯館村	10.2	2.0
浪江町津島地区	10.6	2.0
飯館村	10.3	2.0
浪江町津島地区	10.7	2.0
飯館村	10.4	2.0
浪江町津島地区	10.8	2.0
飯館村	10.5	2.0
浪江町津島地区	10.9	2.0
飯館村	10.6	2.0
浪江町津島地区	11.0	2.0
飯館村	10.7	2.0
浪江町津島地区	11.1	2.0
飯館村	10.8	2.0
浪江町津島地区	11.2	2.0
飯館村	10.9	2.0
浪江町津島地区	11.3	2.0
飯館村	11.0	2.0
浪江町津島地区	11.4	2.0
飯館村	11.1	2.0
浪江町津島地区	11.5	2.0
飯館村	11.2	2.0
浪江町津島地区	11.6	2.0
飯館村	11.3	2.0
浪江町津島地区	11.7	2.0
飯館村	11.4	2.0
浪江町津島地区	11.8	2.0
飯館村	11.5	2.0
浪江町津島地区	11.9	2.0
飯館村	11.6	2.0
浪江町津島地区	12.0	2.0
飯館村	11.7	2.0
浪江町津島地区	12.1	2.0
飯館村	11.8	2.0
浪江町津島地区	12.2	2.0
飯館村	11.9	2.0
浪江町津島地区	12.3	2.0
飯館村	12.0	2.0
浪江町津島地区	12.4	2.0
飯館村	12.1	2.0
浪江町津島地区	12.5	2.0
飯館村	12.2	2.0
浪江町津島地区	12.6	2.0
飯館村	12.3	2.0
浪江町津島地区	12.7	2.0
飯館村	12.4	2.0
浪江町津島地区	12.8	2.0
飯館村	12.5	2.0
浪江町津島地区	12.9	2.0
飯館村	12.6	2.0
浪江町津島地区	13.0	2.0
飯館村	12.7	2.0
浪江町津島地区	13.1	2.0
飯館村	12.8	2.0
浪江町津島地区	13.2	2.0
飯館村	12.9	2.0
浪江町津島地区	13.3	2.0
飯館村	13.0	2.0
浪江町津島地区	13.4	2.0
飯館村	13.1	2.0
浪江町津島地区	13.5	2.0
飯館村	13.2	2.0
浪江町津島地区	13.6	2.0
飯館村	13.3	2.0
浪江町津島地区	13.7	2.0
飯館村	13.4	2.0
浪江町津島地区	13.8	2.0
飯館村	13.5	2.0
浪江町津島地区	13.9	2.0
飯館村	13.6	2.0
浪江町津島地区	14.0	2.0
飯館村	13.7	2.0
浪江町津島地区	14.1	2.0
飯館村	13.8	2.0
浪江町津島地区	14.2	2.0
飯館村	13.9	2.0
浪江町津島地区	14.3	2.0
飯館村	14.0	2.0
浪江町津島地区	14.4	2.0
飯館村	14.1	2.0
浪江町津島地区	14.5	2.0
飯館村	14.2	2.0
浪江町津島地区	14.6	2.0
飯館村	14.3	2.0
浪江町津島地区	14.7	2.0
飯館村	14.4	2.0
浪江町津島地区	14.8	2.0
飯館村	14.5	2.0
浪江町津島地区	14.9	2.0
飯館村	14.6	2.0
浪江町津島地区	15.0	2.0
飯館村	14.7	2.0
浪江町津島地区	15.1	2.0
飯館村	14.8	2.0
浪江町津島地区	15.2	2.0
飯館村	14.9	2.0
浪江町津島地区	15.3	2.0
飯館村	15.0	2.0
浪江町津島地区	15.4	2.0
飯館村	15.1	2.0
浪江町津島地区	15.5	2.0
飯館村	15.2	2.0
浪江町津島地区	15.6	2.0
飯館村	15.3	2.0
浪江町津島地区	15.7	2.0
飯館村	15.4	2.0
浪江町津島地区	15.8	2.0
飯館村	15.5	2.0
浪江町津島地区	15.9	2.0
飯館村	15.6	2.0
浪江町津島地区	16.0	2.0
飯館村	15.7	2.0
浪江町津島地区	16.1	2.0
飯館村	15.8	2.0
浪江町津島地区	16.2	2.0
飯館村	15.9	2.0
浪江町津島地区	16.3	2.0
飯館村	16.0	2.0
浪江町津島地区	16.4	2.0
飯館村	16.1	2.0
浪江町津島地区	16.5	2.0
飯館村	16.2	2.0
浪江町津島地区	16.6	2.0
飯館村	16.3	2.0
浪江町津島地区	16.7	2.0
飯館村	16.4	2.0
浪江町津島地区	16.8	2.0
飯館村	16.5	2.0
浪江町津島地区	16.9	2.0
飯館村	16.6	2.0
浪江町津島地区	17.0	2.0
飯館村	16.7	2.0
浪江町津島地区	17.1	2.0
飯館村	16.8	2.0
浪江町津島地区	17.2	2.0
飯館村	16.9	2.0
浪江町津島地区	17.3	2.0
飯館村	17.0	2.0
浪江町津島地区	17.4	2.0
飯館村	17.1	2.0
浪江町津島地区	17.5	2.0
飯館村	17.2	2.0
浪江町津島地区	17.6	2.0
飯館村	17.3	2.0
浪江町津島地区	17.7	2.0
飯館村	17.4	2.0
浪江町津島地区	17.8	2.0
飯館村	17.5	2.0
浪江町津島地区	17.9	2.0
飯館村	17.6	2.0
浪江町津島地区	18.0	2.0
飯館村	17.7	2.0
浪江町津島地区	18.1	2.0
飯館村	17.8	2.0
浪江町津島地区	18.2	2.0
飯館村	17.9	2.0
浪江町津島地区	18.3	2.0
飯館村	18.0	2.0
浪江町津島地区	18.4	2.0
飯館村	18.1	2.0
浪江町津島地区	18.5	2.0
飯館村	18.2	2.0
浪江町津島地区	18.6	2.0
飯館村	18.3	2.0
浪江町津島地区	18.7	2.0
飯館村	18.4	2.0
浪江町津島地区	18.8	2.0
飯館村	18.5	2.0
浪江町津島地区	18.9	2.0
飯館村	18.6	2.0
浪江町津島地区	19.0	2.0
飯館村	18.7	2.0
浪江町津島地区	19.1	2.0
飯館村	18.8	2.0
浪江町津島地区	19.2	2.0
飯館村	18.9	2.0
浪江町津島地区	19.3	2.0
飯館村	19.0	2.0
浪江町津島地区	19.4	2.0
飯館村	19.1	2.0
浪江町津島地区	19.5	2.0
飯館村	19.2	2.0
浪江町津島地区	19.6	2.0
飯館村	19.3	2.0
浪江町津島地区	19.7	2.0
飯館村	19.4	2.0
浪江町津島地区	19.8	2.0
飯館村	19.5	2.0
浪江町津島地区	19.9	2.0
飯館村	19.6	2.0
浪江町津島地区	20.0	2.0
飯館村	19.7	2.0
浪江町津島地区	20.1	2.0
飯館村	19.8	2.0
浪江町津島地区	20.2	2.0
飯館村	19.9	2.0
浪江町津島地区	20.3	2.0
飯館村	20.0	2.0
浪江町津島地区	20.4	2.0
飯館村	20.1	2.0
浪江町津島地区	20.5	2.0
飯館村	20.2	2.0
浪江町津島地区	20.6	2.0
飯館村	20.3	2.0
浪江町津島地区	20.7	2.0
飯館村	20.4	2.0
浪江町津島地区	20.8	2.0
飯館村	20.5	2.0
浪江町津島地区	20.9	2.0
飯館村	20.6	2.0
浪江町津島地区	21.0	2.0
飯館村	20.7	2.0
浪江町津島地区	21.1	2.0

4月16日
住民代表説明会



福山哲郎官房副長官、平野達男内閣府副大臣、松下忠洋経済産業副大臣が来村。行政区長などを対象とした計画的避難に関する説明会を開催しました。

4月17日
枝野幸男内閣官房長官 計画的避難の協議



4月18日
第8回村議会臨時会



4月17日
民主党参議院議員・増子輝彦氏 来庁



4月19日
杉良太郎氏・伍代夏子氏 慰問



ラーメンや野菜などの支援物資を持って「やすらぎ」を訪れ、避難する村民と懇談しました。

4月20日
合同入学式・入園式



合同入園式



▲飯樋幼稚園の新入園児



▲合同入園式は飯館中学校多目的ホールで開催



▲草野幼稚園の新入園児

始業式



▲同日、幼稚園・小学校・中学校の各校舎で始業式が行われました



▲飯館中学校体育館で小中学校の合同入学式を開催

合同入学式



▲村内3小学校の新入学生が勢ぞろい



▲新しい制服に身を包んだ飯館中の新入学生



▲スクールバスで避難先へ帰るようす

川俣町の支援を受けて

村は、いち早く幼稚園・小中学校の移転先を探し始め、川俣町へ支援を要請。川俣町は快く受け入れを承諾してくれました。草野幼稚園は町立川俣幼稚園、飯樋幼稚園は町立富田幼稚園、草野・飯樋・白石小学校は町立川俣中学校、飯館中学校は県立川俣高校に間借りして、4月21日から保育・授業が始まりました。

▼川俣中学校の教室で授業を受ける小学生たち



▲川俣高校の教室で授業を受ける飯館中学生

村内企業に対する計画的避難に関する説明会



計画避難
指定
首相、飯館村長におわび

菅直人首相は十九日、飯館村の菅野典雄村長と菅邸で会談し、福島第一原発事故で村全域が「計画的避難区域」に指定されることについて「申し訳ない」といふ。

菅野村長は「ほとんどの村民が職や家畜を失い、生活が成り立たなくなる。全村避難は計り知れないリスクがある」として十分な支援を求めた。

福島民報新聞 H 23・4・20
(共同通信社配信)

4月23日

被災証明書の発行がスタート



手続きのため、村民が庁舎へ集まり始めました。

[illegible]

4月22日

国が村全体を計画的避難区域に指定。

国は飯舘村を計画的避難区域に設定したと発表。

この日を境に、飯舘村は全村避難へ向けて動き出すことになりました。



▲国の発表を告げるテレビに注目する職員

4月22日

黛まどか氏 来庁



4月26日

村民決起集会



村民有志による「愛する飯舘村を還せ！！プロジェクト」
がいちばん館で決起集会を開催。



▲村民が登壇し、思いを述べました

4月22日

国から派遣された職員が着任し、飯舘村現地政府対策室設置



政府と村との連絡調整を行うため7月10日まで設置。内閣府から6人の職員が派遣されました。

4月27日

村災害救援見舞金 準備作業



各避難説明会場で配布する1人3万円の見舞金を準備する役場職員。

4月29日

村内 20 行政区での避難説明会並びに見舞金給付



4月30日

栃木県鹿沼市の避難所を閉鎖



鹿沼市に避難していた約 70 人が帰郷しました。

避難を前に
飯沼村民ら一時帰郷

鹿沼市から
県立鹿沼市の避難所へ

県立鹿沼市の避難所へ
レストリーナに避難して
いる飯沼の七人は
三日（月）未だとし
た春休みに、村バ
スで避難所から帰宅し
た。

大崎さん（中心）は小宮
地区の自衛に帰った。村
に帰って嬉しい思いが
するが、まだここに避難
するのだから避難生活
を浮かべた。関係地区の落
武雄さん（左）は、放射能が
少なくてと話した。

原田市役所をめぐり、村三
月、村内の希望者同入
入をバで鹿沼市に避難せ
ていく。

飯沼村の五十八と南相馬
市の二十人の二人が避難
所に行き、まだ十日
避難が待たれた。南相
馬市が、飯沼市に避難
所はない。飯沼市に感
謝したいと和礼を送る。村
長が、一本は、飯沼市
長が、いまだ、飯沼市
から避難を助けた。

鹿沼市から飯沼村に戻り、
荷物を整理する村民＝30日午後6時5分ごろ



H 23・5・1

福島民報新聞

4月30日

東京電力による謝罪及び住民説明会



飯舘中学校体育館で開催され、東京電力副社長が、参加した1,300人の村民へ謝罪しました。



▲東京電力社員へ放射能への不安や村の現状を訴える村民

：福島民報新聞 H23.5.1



5月2日

復興庁復興構想委員会による視察



五百旗頭真委員長をはじめとする委員が役場を訪れ、村長と会談しました。

5月2日

バス通学のようす



川俣町内に間借りした校舎で4月21日から再開した授業を受けるため、村役場発のスクールバスに乗り込む子どもたち

5月6日

避難相談



役場第一会議室で、個別相談に応じる役場職員。日本赤十字社
寄贈の生活家電セットの説明や避難先の斡旋などを行いました。

5月2日

混雑する庁内



被災証明手続きや住宅相談のために、多くの村民が役場へ詰めかけました。

5月6日

ボランティアによる集計作業



計画的避難に関する村民調査票は、大学職員などのボランティアによってデータ化されました。6日は19人、14日は16人が作業に当たりました。

[illegible]

5月8日
自由民主党参議院議員・佐藤正久氏 来庁

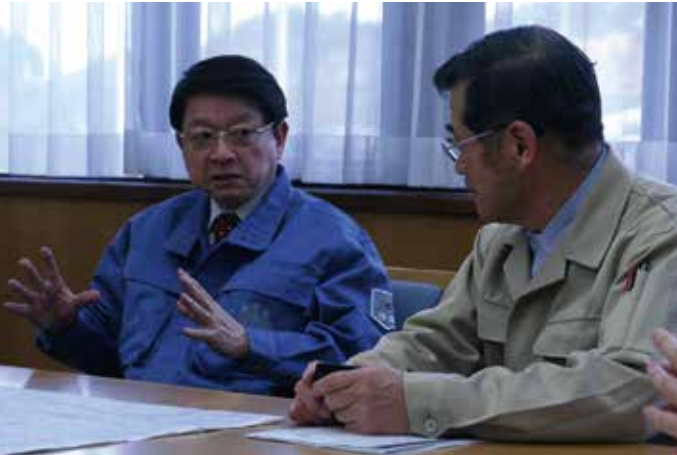


5月9日
東京電力社長 来庁



来庁した東京電力社長が、役場第一会議室で村に謝罪しました。

5月9日
片山善博総務大臣 来庁



村長は、「村に住民票を置いたまま、村民が避難先でも行政サービスを受けられる仕組みを」と訴え、「二重の住民登録」の提案を行いました。

5月8日
岡田克也民主党幹事長 来村



◀いいいてホーム視察のようす



5月9日
志位和夫日本共産党委員長 来庁



村民が情報共有を

飯館村の住民避難計画を、避難計画の災害対策委で提言

飯館村の住民避難計画が示された九日の村議会災害対策特別委員会で、委員から「避難後に村民がメール配信などで情報を共有できないか」などの提言が出された。これに対し、県や村側は前向きに対応する考えを示した。

「コミュニティーを大事にしてほしい」ニスクールバスで児童生徒

福島民報新聞 H23・5・10

村内の小売店や農家は震災があった三月十一日から開店休業状態が続いている。「補償がどうなるのか分からない」と、今後の対応を判断できないなどとして、国の担当者に早期の仮払いを求める声も相次いだ。

災害対策特別委員会に出席する菅野典雄村長(中央奥)

5月10日
乳幼児世帯への避難説明会

▶全村避難にあたり、村職員が受け入れ先情報を一つひとつ集めて作成した一次避難計画



▲いちばん館での説明のようす



◀終了後、希望する支援物資を申し込む参加者



▶ベビーフードや紙おむつなどの生活必需品

5月10日

乳児の水道水摂取制限解除

役場前に置かれた看板

役場前に置かれた看板

5月11日

計画的避難に伴う家畜の今後の方針に係る説明会



村内の畜産農家に対し牛の出荷や避難先等について説明がありました。

5月14日

第7回日本再発見塾 in 福島



第3回の開催地である飯舘村へ、呼びかけ人や実行委員が視察に訪れ、飯舘村支援についての意見交換が行われました。

5月18日

計画的避難に係る企業説明会



5月15日

計画的避難による離村（第1陣）開始



計画的避難にともなう避難者の第1陣が離村。10世帯64人が吉倉公務員宿舎や飯坂温泉赤川屋などに避難しました。

5月16日

ドイツから国会議員が来庁



避難前日、悔しさと決意と…



飯舘村民「必ず帰る」

慌ただしく準備、募る憤り

避難前日は、多くの村民が、悔しさと決意とを胸に、避難の準備を進めていた。多くの村民が、悔しさと決意とを胸に、避難の準備を進めていた。

飯舘の特養継続可

8事業所も 政府、村に通知

政府の原子力災害対策本部は17日、福島第1原発事故で全住民の計画的避難指示が出た福島県飯舘村に対し、村内の特別な養護老人ホーム「いいたて」を認めた。具体的な事業継続を認める通知は、村内での事業継続を求めた村側の要望を受け入れた。ホームは村内唯一の特養施設で、100人程度の利用者がいる。

日付	内容
3月30日	飯舘村で計画的避難の準備が進められた。
4月6日	飯舘村で計画的避難の準備が進められた。
10日	飯舘村で計画的避難の準備が進められた。
11日	飯舘村で計画的避難の準備が進められた。
12日	飯舘村で計画的避難の準備が進められた。
13日	飯舘村で計画的避難の準備が進められた。
15日	飯舘村で計画的避難の準備が進められた。
16日	飯舘村で計画的避難の準備が進められた。
17日	飯舘村で計画的避難の準備が進められた。
18日	飯舘村で計画的避難の準備が進められた。
19日	飯舘村で計画的避難の準備が進められた。
21日	飯舘村で計画的避難の準備が進められた。
22日	飯舘村で計画的避難の準備が進められた。
24日	飯舘村で計画的避難の準備が進められた。
26日	飯舘村で計画的避難の準備が進められた。
28日	飯舘村で計画的避難の準備が進められた。
29日	飯舘村で計画的避難の準備が進められた。
30日	飯舘村で計画的避難の準備が進められた。
5月1日	飯舘村で計画的避難の準備が進められた。
2日	飯舘村で計画的避難の準備が進められた。
8日	飯舘村で計画的避難の準備が進められた。
9日	飯舘村で計画的避難の準備が進められた。
10日	飯舘村で計画的避難の準備が進められた。
11日	飯舘村で計画的避難の準備が進められた。
15日	飯舘村で計画的避難の準備が進められた。



始業式で生徒を激励する二本松校長＝18日午後、福島市

相馬農飯舘校 福島で始業式

1ヵ月遅れ 生徒の笑顔

福島第1原発事故で計画避難が始まった飯舘村にある相馬農飯舘校（二本松義公校長）の始業式と新入生歓迎会は18日、学校機能を移転した福島市の県教育センターで行われた。約1ヵ月遅れの始業式となったが、互いの元気な姿を確かめ合う生徒たちの笑顔があふれた。

始業式には在校生54人が出席。津波で亡くなった5人の生徒に黙とうをさげた後、二本松校長が「困難な時こそ真価と一人一人の姿勢が問われる。何も無いところから一ページをつくらなければならない」と決意を述べた。

久しぶりに友人と再会した菅野裕太さん（3年）は、「クラスメートの元気な姿を見て安心した。勉強が遅れていることは少し不安」と話した。市内の祖母の家から通学するという伊藤菜穂さん（1年）は、「や」と入学できうれしい。親と離れることに不安もあるけど、今は高校生活が楽しめ」と笑顔を見せた。

生徒たちは今後、体育館に設置した各学年の仮設教室で授業を受けるほか、全校生74人のうち58人が同センターで寮生活を送る。授業は19日から行う。

福島民友新聞 H23.5.19

5月19日

被災者支援プログラム「いっしょにがんばろう、日本」招待



MLA 豪州食肉家畜生産者事業団主催の招待事業が、シドニーで開催されました。飯舘村からは肉牛生産者と元村職員が招待され、慈善バーベキューに参加しました。

5月20日

行政区長会



5月21日

比曽・長泥・蕨平地区住民対象の健康診断



いちばん館で行われた健康診断のようす。

5月23日

スクールバス運行 開始



旅館やホテルなどの一次避難先から通学するためのスクールバスが運行を開始。村内発のスクールバスは6月10日で終了しました。

5月21日

避難説明会



▶一般世帯を対象
とした避難説明
会を開催



◀ 説明の後、個別相談を実施

飯館村 避難計画書(第1版)	
平成23年5月9日 飯館村村長 菅野典雄	
1. 基本的考え方	
(1) ①～④の優先順位により、避難先の準備が出来次第避難を実施	
① 乳幼児・園児及び妊産婦の方がいる世帯	
② 18歳未満の方がいる世帯	
③ 放射線量が低い3行政区(比叡・長延・蔵平)に居住されている世帯	
④ ①～③以外の世帯	
(2) なお、②については、可能な限り1日復旧に開設した幼稚園・小中学校に連れられるように配慮する。	
(3) 村民自ら手続きして入居した民間賃貸住宅等には、県の借り上げ住宅に取り換える手続きを行う。	
<経緯>	
4月22日	計画的避難に関する総務指示
4月25日	計画的避難についての住民意向調査(～4月29日)
4月28日	計画的避難に関する飯館村の基本的考え方の公表
4月29日	計画的避難に関する住民説明会
4月29日	避難先施設入居申請(～5月6日まで)
5月9日	避難計画を県に提出
2. 基本データ	
(1) 人口：6587人(3月11日現在)	
(2) 意向調査の結果	
●全回答数：6821人 (回答率99%)	
●避難に必要な戸数：2193戸	
※大家族等の理由により、世帯によっては複数戸数が必要	
1. 村が管轄する施設への避難	1085戸 49%
2. 自主的に避難予定	531戸 25%
3. 避難済み	285戸 13%
4. その他	159戸 7%
5. 不明	133戸 6%
(3) 村が管轄する施設への入居申し込みの結果	
●希望戸数：1,014戸	
単位：戸	
・乳幼児及び妊産婦の方がいる世帯	41
・園児がいる世帯	83
・小中学生がいる世帯	156
・高校生がいる世帯	42
・放射線量が低い3行政区(比叡・長延・蔵平)に居住されている世帯	103
・それ以外の世帯	584

3. 避難計画		
(1) 全体概要		
●村が管轄する避難先：1,064戸		
分類	避難先	戸数
・乳幼児及び妊産婦の方がいる世帯	吉倉(財務省)住宅【二次】	29
	吉川屋	8
	赤川屋	4
・園児がいる世帯	吉倉(財務省)住宅【二次】	53
	荒井(財務省)住宅【二次】	2
・小中学生がいる世帯	赤川屋	28
	ブルエール賃貸	42
	大玉TAIGA CC	12
	県自治研修センター	40
	葛飾区立あだたら高原学園	22
	土湯温泉	33
・高校生がいる世帯	赤川屋	7
	JRA福島競馬場寄舎	42
・放射線量が低い3行政区(比叡・長延・蔵平)に居住されている世帯	福島県教育センター	50
	土湯温泉	22
	中ノ沢温泉他	86
	葛飾区立あだたら高原学園	30
	仮設住宅(国見町)【二次】	34
	仮設住宅(相馬市)【二次】	70
	借上げ住宅【二次】	450
※一次避難先を経由せず最初から二次避難先に避難させる運用も実施		
(2) 確保した避難先		
●ホテル等一次避難先：656戸		
あだたらふれあいセンター	3	
葛飾区立あだたら高原学園	50	
福島県自治研修センター	80	
越谷市少年自然の家	15	
土湯温泉	69	
坂坂温泉	66	
JRA福島競馬場寄舎	94	
プリムエール賃貸	90	
大玉TAIGA CC	24	
マウント磐梯	6	
旅館(二本松市)	5	
沼沢温泉	16	
中ノ沢温泉他	86	
福島県教育センター	50	
●仮設住宅(二次避難先)：604戸		
国見町	34	
相馬市	70	
福島市	500	

●借上げ住宅等(二次避難先)：647戸	
松川雇用促進住宅	67
大東建設	93
レオパレス	174
サンケン	68
福島通商	8
県橋上げ住宅	111
吉倉住宅	82
達利住宅	18
吉保コーポ	3
福島大学職員宿舎	8
荒井住宅	15
※ 意向調査の結果から、全戸数(2193)から自主避難の戸数(816)を引いた1377戸を必要戸数と想定。	
4. スケジュール	
5月9日	・避難計画を飯館村議会で審議。その後、県庁に提出
5月10日～	・各世帯と避難先について調整(要すれば割り振りについて抽選も実施) ・(要すれば)避難者を対象にした説明会開催 ・自主避難者の人数及び戸数の把握 ・一次申し込みをしなかった人数及び戸数の把握 ・避難先と受け入れ準備の調整
5月中旬	・避難開始(以降、準備でき次第順次避難)
5月下旬	・仮設住宅工事着工(約一ヶ月で完成予定)

放射性物質を取り除く主な実験

表土にも割き取り、別の場所に運べる

水田に水を張り「代かき」をした後の排水を吸着剤で浄化

ヒマワリなどに吸いよせたり、果物などにも吸いよせたり

■表土割き取り 吸着剤で浄化

農林水産省と農協は、東京電力福島第一原発事故の影響で汚染された農地の土壌から放射性物質を取り除くための技術開発に取り組む。手すく、計画的な掘削区域で、農産物の収穫に支障を及ぼさず、計画的な掘削区域で、放射性物質を取り除く。政府と農協が協力して、放射性物質を取り除く。政府と農協が協力して、放射性物質を取り除く。

除く可能性を検討。影響をまとめる。農協は、放射性セシウムが表面から深さ数センチに侵入している特性に着目。農協の表土を掘り、手すく、計画的な掘削区域で、放射性物質を取り除く。政府と農協が協力して、放射性物質を取り除く。

農水省と県

飯館で28日か

割り取った表土は、8分づつは、セシウムは、放射性物質を取り除く。農協は、放射性セシウムが表面から深さ数センチに侵入している特性に着目。農協の表土を掘り、手すく、計画的な掘削区域で、放射性物質を取り除く。政府と農協が協力して、放射性物質を取り除く。

農地除染へ実証実験

県、独効

農地の土壌から放射性物質を取り除く。農協は、放射性セシウムが表面から深さ数センチに侵入している特性に着目。農協の表土を掘り、手すく、計画的な掘削区域で、放射性物質を取り除く。政府と農協が協力して、放射性物質を取り除く。

改良策も 高い手法検証

上 鈴木徳一農林省農林部長が、24日の閣内閣対策本部で明らかにした。

検証実施については、農産物の影響に関する学術的見地は、農林省の植物検疫は、ヒマワリなどの植物による放射能汚染などの懸念があるため、改良策による低減効果などを検証する

「同省でチェルノブリリ事故から4年ほど経つと、除国内の土質などに与える除の手法を見いだしたい」としている。

28日の東京会議にむけて、農林省がアメリカの評定を協議する。同省関係者は協議に遅延過ぎる虞を相出する方向で調整を求めている。同村の宮野典雄村長は「一国家プロジェクトに入れたらつらつ。今後、予算化されるような取組を期待している。土壌の改良は、双葉郡の将来もあるので、事なことに願う」。

福島民友新聞 H23.5.25

役場来月20日移転

飯舘村出張所で福島・飯野へ

故、東電電力福島第一原発事
故で計画の避難を進める飯
館村の菅野雄村長は26日
に開かれた村臨時議会で、
役場機能を6月20日を目標
に福島市飯野町に移すこと
を明らかにした。臨時議会
では、同市飯野町に外出張
所を設置する条例案を可決
した。

村は26日、職員16人によ
り村役場機能移転対策班を
設置し、移転に向けて始動
する。

東日本大震災復興事業補助
金、大震災に伴う災害弔慰
金などを盛り込んだ。条例
閣僚では、村役場飯野出張
所設置条例や災害弔慰金支
給改正条例などを可決。主
張所条例は6月1日から施
行される。

村民436人が避難

役場機能が入居するのは
26日。移転先となる福島
市の飯野支所、分館を視
察した。

役場機能移転予定の飯野
支所を視察する村議員ら



事務局で構成。移転対象と
対策班は、役場各課職員、
村役所は、役場各課職員、
に書類やデータ機器、公
用車、駐車場の確保を検討
する。また作業期間や人員、
機材の調整などを進める。
村は避難後、本庁舎に職
員約10人を残し、残る約70
人は出張所で業務を行う方
針。

補正に見守り隊予算
25日に開かれた飯館村臨
時議会では、計画的避難後
に村民が村内をパトロール
する重点分野用貸出事業
「全村見守り隊」の事業費
8億6400万円などを盛
定。

の計画的避難の実施状況を
飯館村は25日、同日現在
まとめ、人口6571人中
4386人が避難したことが
分かった。
このうち村避難計画に基
づく避難では、2677世帯
893人が避難した。村は
放射線リスクの高い乳幼
児、妊産婦、幼児、小中高
生、緊密な放射線量の高い
行政区域の避難を優先的に進
めており、今月中には終了
させたとい考え。

また、村内からの幼稚園
小中学生のスクールバスも
今週末の27日で終了する予
定。

門馬副村長は「福島市の
対応に感謝している。6月
20日前後の移動に向け早急
に準備を進めたい」と話し
た。

福島民友新聞
H 23
・ 5
・ 26



▶会場は飯館中学校体育館



▲このイベントは「愛する飯館村を還せ!!プロジェクト」主催で開催され、各行政区の村民による意見交換も行われました

▶いいたてお母さんコーラスとともに歌う歌手の加藤登紀子さん



◀「ふるさと」を全員で合唱



▲加藤さんは「花」や「知床旅情」などを弾き語りを交えて披露しました



計画的避難にともない村外へ役場機能を移転するため、福島市飯野支所を視察しました。



高価な農機具を置いて避難することへの不安を解消するため、村振興公社たい肥センター敷地で農機具を一斉保管することになりました。



商工関係者向けの説明会が行われました。



計画的避難区域の設定にともない、村外転居を考える村民が増えたため、村役場玄関前に引越し相談受け付け窓口が設置されました。

飯館牛中心に臨時競り

避難に伴い成牛出荷も 価格やや下がる

東京電力福島第一原子力発電所事故に伴い、計画された避難区域に指定された飯館村の肉牛を中心とした和牛競りが、六日、本宮市の泉家畜市場で開かれた。同村住民が今月下旬をめぐって、飯館牛などの出荷された臨時競り

「飯館牛の名前がやさんへは、今日出てきたのに…」と、涙を流す住民がいた。この競りでは、飯館牛の肉牛を中心とした和牛競りが、六日、本宮市の泉家畜市場で開かれた。同村住民が今月下旬をめぐって、飯館牛などの出荷された臨時競り

「や」と有名になったのに…」

飼育主、嘆きと怒り

村の畜産業飯館二郎さんへは、今日出てきたのに…」と、涙を流す住民がいた。この競りでは、飯館牛の肉牛を中心とした和牛競りが、六日、本宮市の泉家畜市場で開かれた。同村住民が今月下旬をめぐって、飯館牛などの出荷された臨時競り

「や」と有名になったのに…」

飼育主、嘆きと怒り

村の畜産業飯館二郎さんへは、今日出てきたのに…」と、涙を流す住民がいた。この競りでは、飯館牛の肉牛を中心とした和牛競りが、六日、本宮市の泉家畜市場で開かれた。同村住民が今月下旬をめぐって、飯館牛などの出荷された臨時競り

「や」と有名になったのに…」

福島民報新聞 H23.5.27

5月28日

農地土壌除染技術開発実証実験 開始



汚染された農地を復活させるため「ふるさとへの帰還に向けた取り組み」として鹿野農林水産大臣が来村し、会合が開かれました。

5月29日

沢田知可子さん 来村



沢田さんは2008年、飯館中の生徒が企画したコンサートに出演。今回は、当時企画に携わった生徒と再会し、彼らが成人した年にふたたびコンサートを開くと約束しました。

5月30日

飯館村・福島市間で支援協定書締結



役場機能を移転する福島市と協定を結びました。



村長とともに鹿野農林水産大臣もひまわりの種をまきました。



▲「会いたい」などを熱唱する沢田さん

土壌浄化テスト実施
飯館で農業漁業復興共同体

本県と宮城、岩手各県の農業事業者で組織する「東日本大震災・農業漁業復興共同体」(岡「一郎代表」)は31日、計画的避難区域に指定された飯館村比留地区の水田で、浄化剤を使った放射線量の低減の公開テストを行った。

水田に浄化剤を散布する関係者ら＝飯館村比留

およそ半減したという。散布した浄化剤は「ラウイング」(京都府)が開発。同社によると「浄化剤が短時間で土壌中の放射性セシウムを閉じこめ、効果も持続する」という。

同団体の岡代表は「土壌の浄化にはさまざまな方法がある。こうしたテストを続け、正解を見つけない」と話している。

福島民友新聞 H23.6.1

長泥(飯館)で積算20ミリシーベルト超

文科省測定 浪江に次ぎ2地点目

文部科学省は30日、福島県浪江町から北西33キロの飯館村長泥で、3月23日から5月20日まで観測した積算放射線量が20ミリシーベルトを超えたと発表した。文科省は原発から半径20キロ圏外の15地点で積算線量を測定しており、20ミリシーベルトを超えたのは浪江町赤平木に次いで2地点目。

飯館村から乳牛移動を禁止する。飯館村と計画避難区域に指定された川俣町の一部地域で飼育中の約150頭を週内に順次、区域外に移動させる予定。

福島民友新聞 H23.5.31

5月31日

原発賠償審査会に村長が出席

「失ったもの大きい」

飯館村長が苦悩訴え

土地収用準じた制度を

原発賠償審査会

飯館村長は、事故後の6回、賠償審査会に出席し、苦悩を訴えた。また、避難区域に入居した住民の生活の困りごとを訴えた。また、避難区域に入居した住民の生活の困りごとを訴えた。また、避難区域に入居した住民の生活の困りごとを訴えた。

福島民友新聞 H23.6.1

6月1日

飯館村役場飯野出張所 看板設置



6月22日の移転に先立ち、看板を設置しました。

5月31日

国が長泥行政区内の観測点で積算放射線量20ミリシーベルトを超えたと発表。

5月31日

片山善博総務大臣へ要望



村長が総務省を訪問して要望書を手渡し、財政措置要望と災害に係る政府支援を要請しました。

国や自治体からの人的支援

震災直後から現在に至るまで、村の役場機能を支えるために国や全国の自治体から多くの応援職員を派遣していただいています。
この場を借りて、感謝申し上げます。

派遣元	時期	人数	内容
福島県農林水産部	2011/3/17～	3人	
国(経済産業省)	①2011/4/5～	3人	災害対策本部の総合調整、個別事案の助言指導
	②2011/9/28～	2人	
国(現地政府対策室)	2011/4/22～2011/7/10	5人	現地政府対策
国(福島現地対策本部)	2012/1/10～	1人	除染対策
群馬県高崎市	2011/5/19～2011/7/21	述べ39人	借上げ住宅あっせん、ペット助言、保健相談
国(財務局)	2011/5/23～2011/7/28	2人	公的宿舍等入居あっせん
愛媛県内子市	2011/6/27～2011/7/7	2人	借上げ住宅等入居あっせん
長崎県	2011/6/30～2011/8/30	2人	避難所の保健相談
栃木県鹿沼市	2012/4/1～	1人	中山間地域等直接交付金や有害鳥獣に関する事務

飯舘村災害対策本部への人的支援



▲村役場第2会議室に設置された災害対策チームのようす。国や県から派遣された職員も参加しました

群馬年金事務所職員



▲村役場内に設置した、年金相談窓口で業務にあたっていました。写真は平成23年6月2日のようす

群馬県高崎市職員



愛媛県内子町職員



6月2日
いいたて全村見守り隊 説明会



応募者を対象に説明会が行われました。

6月3日
操業継続希望事業所のようす



◀継続操業を認められた
フクホウ工業
▼線量管理のための注意書き



村内では9事業所に継続操業が認められ、操業継続事業者には従業員の線量管理や健康管理が義務づけられました。



飯舘村の虎捕太鼓が披露された
五大院不動尊縁日

飯舘避難住民
あったか交流

福島市飯野町の五大院不動尊縁日は28日、同不動尊で開かれた。計画的避難で飯舘村が役場機能を同町に移すなど、多くの避難者が同町に移っていることから今回は縁日を企画する五大院縁日を兼ねて「飯舘との交流」をメインテーマに開催、飯舘の伝統芸能「虎捕太鼓」などが勇壮に披露された。

縁日には菅野典雄飯舘村長も訪れあいさつ。飯舘村で交通安全の手作りのミニわらじを作っている永沢清さんが飯舘村の子どもの代表にミニわらじを寄贈した。続いて、飯舘村の女性らが勇壮に虎捕太鼓を演奏し、飯舘町の歓迎に応えた。「どぶろく特区」の認定を受けた飯舘村で、どぶろく生産の先頭に立って活躍する佐々木千栄子さんの茶屋も出店した。

福島民友新聞 H23.6.4

窓は開けず
腰に線量計



腰に放射線の線量計を付けて作業する川俣理工の従業員。19日午後2時30分ごろ

操業続ける事業所
夏目となった九日、計画的避難区域の川俣町山木屋地区にある川俣理工の工場内は三〇度を超えた。西口修工場長は「窓を開けるとは言えないので、扇風機で何とか暑さをしのいでいる状況」と話した。

区域内での操業が認められた同社は、変圧器の部品を製造している。風評被害の影響もなく、安定した受注を保っているという。

ただ、従業員は腰などに線量計を付けなければならず、放射線量を気にしながらの仕事を余儀なくされている。暑くても窓を開けるのに抵抗感がある従業員もおり、小まめに水分補給するように指示している。

山木屋地区では、三社が操業を認められたが、操業しているのは同社と笠原鋳物福島工場、フクシマ・フロンティア・ヒグチ第二工場は風評被害を懸念する取引先の影響で操業を断念し、従業員七人は町内の本社工場に移った。

飯舘村では、いいたてホーム(理事長・菅野典雄村長)が従業員を募集している。

操業には、従業員の年間放射線量が二〇〇ミリシーベルトを超えない、女性には三月ごとに五ミリシーベルトを超えない、従業員全員が線量計を携帯し、累積線量を村に報告する、などの順守事項が設けられた。婦人服縫製のフレボ・東洋は、女性従業員が九割以上を占める。避難先の東北地方から約一時間の遠距離通勤になった。退職を申し出た従業員を補充するため、村広報を通じてパート

福島民報新聞 H 23・6・10

6月6日
いいたて全村見守り隊 出発式



隊員は出発式の後いしばん館に集まり、出勤から退勤までの作業順序などの説明を受け、パトロールを開始しました。

6月7日
放射線と健康に関する相談会



ビレッジハウスで中川恵一東大病院准教授による講演が行われました。

6月9日
一次避難所のようす



村職員が保健師などとともに各地の一次避難所を定期的に訪問。

▼血圧を測定し、体調をたずねるようす



▲隊員それぞれの車にステッカーを貼り、パトロールに出発！

6月8日
飯館牛避難打ち合わせ



「県畜産試験場で飯館牛を預かってもらえないか」。県職員と畜産農家を交えた話し合いが行われました。



▲困り事や不安な事などを聞きとる村職員

6月11日
文部科学省による土壌調査



文部科学省職員が来村し、土壌汚染の状況を確認するため、表層 5cm の土壌を採取し、ゲルマニウム半導体検出器を用いて核種分析を実施しました。

6月13日
稲の試験作付け実証実験



作物への放射性物質の移行を調べるため農林水産省が実施。表土をはぎ取ってから米を作付けする作業が、飯樋字八和木地内の水田で行われました。

6月13日
村内企業移転に関する打ち合わせ



計画的避難区域設定に伴う村内企業の移転について、現地政府対策室と村で話し合いが行われました。

6月17日
村内文化財保管委託による運搬のようす



計画的避難区域の指定に伴い、公民館収蔵の古文書、考古学資料等の文化財を財団法人福島県文化振興事業団へ保管委託するための作業が行われました。

避難後も「飯館」守る

東京電力福島第1原発事故で計画的避難を進める飯館村は13日、避難後の防犯対策として村民に車両通行証の発行を開始した。避難に伴い同村では空き巣などの防犯対策が課題になっており、警察による警戒とともに村民が防犯パトロール隊を組織するなど対応を強化している。村はパトロール隊員が村内で通行、駐車する車を確認する際、不審な車と見分けられるよう通行証発行を決めた。

車両通行証を発行

発行は村役場で行われており、通行証を受け取りに訪れた福島市に避難予定の会社員北山幸博さん(26)は「検問など十分過ぎるほどの防犯対策を講じてほしい」と話した。車両通行証には複製防止の工夫がされている。発行は、役場機能移転先の福島市飯野町でも22日から行われる予定で、3千〜5千人分の発行を見込んでいるという。

福島民友新聞 H23・6・14

計画的避難区域の飯館村が、避難後の防犯対策の一環として発行する車両通行証を受け取る村民(左)＝13日午前、飯館村役場

6月23日

福島県佐藤雄平知事と村長が会談



会談の中で村長は要望書を提出しました。

1 平成 23 年度以降予定されていた主要事業への支援について

平成 23 年度以降に執行が予定されていた主要事業、

- (1) 草野小学校大規模改修事業
- (2) 飯館村公民館建替事業
- (3) 公営住宅整備事業（大谷地住宅）
- (4) 飯館町活性化事業
- (5) その他の国庫費助成対象事業

については、速やかな飯館村の生活再建、生活の基盤である公共施設等の復興に資するため、あらゆる制度等を活用し弾力的運用を図り支援していただくよう要望する。

2 国庫財源を含む対象事業について

国庫財源を含む主要事業については、計画的避難区域指定解除後の村の復興・再建計画等にあわせ、事業採択等を県から国の関係省庁等に強く働きかけ、柔軟かつ強力な支援を受けられるよう配慮していただくよう要望する。

東日本大震災に関する要望書

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は、大地震及び大津波により多くの人命を奪い、家屋等の生活基盤、農業や商業、工業等の経済基盤、道路、水道等の社会インフラを根こそぎ破壊するなど、甚大な被害をもたらした。

また、東京電力福島第一原子力発電所において発生した原子力災害により、原発周辺地域の住民はすでに 3 か月を超える厳しい避難生活を余儀なくされている。さらに、本村をはじめ計画的避難区域が設定されたことにより、原発から遠く離れた地域の住民までが避難を強いられる危機的事態となっており、多くの住民がふるさとを追われ、仕事を失い、暮らしの見通しが立たない窮地に追い込まれている。

また、本村においては平成 23 年度に予定されていた主要事業の大部分が執行できない状況に追い込まれ、村の総合計画及び過疎振興計画等が土台から崩れる落ちるような状況に陥ろうとしている。

このため、近い将来、計画的避難区域指定が解除され、村民が帰村して取り組む、飯館村の復興、再建事業について

特段のご配慮をいただくよう、以下を強く要望する。

◀村長が知事に手渡した要望書

6月23日

自由民主党参議院議員・森まさこ氏 来庁



6月27日

飯館村社会福祉協議会 臨時事務所オープン



村役場飯野出張所の向かいにある「いいの交流館」に臨時事務所が設けられ、業務がスタートしました。

飯館村長が知事と会談 復興への配慮求める

東京電力福島第一原発事故の影響で計画的避難区域に指定され、佐藤知事と会談し、村に戻った際の支援などを要望した菅野村長

全村避難を進めている飯館村の菅野典雄村長は二十三日、佐藤雄平知事と会談した。区域指定が解除されて村に戻った際には、今年度実施予定だった施設建設などの主要事業に最優先で取り組めるよう配慮してほしいと要望した。

県庁を訪れた菅野村長は、二年后に村に戻るーなど九項目の目標を掲げた「まていな希望プラン」を佐藤知事に説明し、村の復興への思いを伝えた。

その上で、小学校大規模改修や飯館公民館建て替えなど国・県の補助が決まり、着手予定だった大型事業が執行できない状況にあることを説明。「村に戻ったら（予算など）ゼロからスタートではやりきれない。戻った際には最優先で実施できるように制度整備などの配慮をお願いしたい」と要望した。

佐藤知事は「趣旨は十分に分かりました」と答えたという。

福島民報新聞 H 23 : 6 : 24



相馬市の仮設住宅入居
予定者の説明会

仮設住宅の環境説明

飯館村 相馬で入居の村民に

東京電力福島第一原発事故で計画的避難を進める飯館村の相馬市の仮設住宅に入居する住民を対象にした説明会が26日、飯館村で行われた。入居は7月1日から4日までの予定。同市の仮設住宅には164世帯が入居の予定。約100人が出席した。菅野典雄村長のあいさつの後、村担当者が部屋の間取りや駐車場など、住環境について説明した。

村の仮設住宅はこのほか、福島市飯野町、同市松川町に建設中。

福島民友新聞 H23.6.28

7月1日
東京電力 西澤俊夫社長来庁



東京電力社長が来庁し、謝罪しました。

東京電力株式会社
取締役社長 西沢 俊夫 殿

福島第一原子力発電所の事故に伴う緊急要望書

福島第一原子力発電所の事故に伴う、大量の放射性物質の放出により本村の農畜産物をはじめ、林業、企業・事業所など極めて甚大な被害を被り、しかも村全体が「計画的避難区域」に指定され、全村避難を余儀なくされました。この原発事故によって、村の山林・農地などの自然環境が強く汚染され、また村民の生活も一変してしまいました。現在、村民は厳しい避難生活を強いられ、また雇用の場を失うなど、精神的・肉体的な心労は計り知れません。つきましては、原発事故によって生じている様々な損害に対する補償賠償等について、誠意を持って速やかに対応されるよう、下記の通り強く要望する。

記

1. 福島第一原子力発電所事故の一日も早い収束を図ること、事故処理及び放射能飛散状況については、隠蔽することなく速やかに情報開示すること。
2. 農畜産物および林業並びに商工業者の損害賠償を早期に行うこと。
3. 土壌の除染対策については、国と連携し速やかに実施すること。
4. 村民の健康を守るため、ホールボディカウンターによる検査を速やかに実施するとともに、全村民に放射線量計を早期に配布すること。
5. 村民の生活を守るため、第二次の仮払いを速やかに行うこと。

平成23年7月1日

福島県相馬郡飯館村長 菅野 典雄
飯館村議会議長 佐藤 長平

飯 館 線量調査、除染地点を視察 原発相が現状確認

本県を訪れている細野豪志原発事故担当相は3日午前、飯館村長泥の放射線量モニタリング地点と、ヒマワリなどが植えられている同村二枚橋の農地除染実証実験地点を視察。文部科学省、農林水産省の各現地担当者から説明を受け、調査方法や試験内容、放射線量の現状などを確認した。

【一面に本記】

細野担当相は視察後、「モニタリング一元化に向け、実際の現場を見ることができた。明日の調整会議に生かしたい」と話した。また、「モニタリングの次に重要なのは除染。どのように除染すれば戻れるようになるのか、他の取り組みも見ながら総合的に考えていきたい」と述べた。

飯館村長泥のモニタリング地点では細野担当相が詰め掛けた地元住民に謝罪する場面もあった。

長泥地区長の嶋原良友さん(60)が「今は本当に国を信じられない状態。地元住民は片道切符の列車に乗っているようで出口が見えない」と、早期帰村や雇用対策などを訴えると、細野担当相は「一日も早く戻れるように頑張りたい。往復切符になるようにしたい」と答えた。

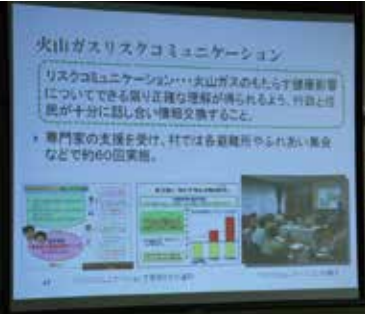
飯館村長泥のモニタリングの方法について説明を受ける細野担当相＝3日午前、飯館村長泥

7月7日
三宅島全島避難に学ぶ勉強会



▲平野祐康前三宅島村長が来庁

▼「全島避難から帰村まで～三宅島 2000 年噴火の経験から～」と題し講演



▲熱心に話を聞く村職員

7月8日
飯館中学校授業風景



▲川俣高校の校舎を間借りして授業を受けるようす

▶毎日の放射線量や応援メッセージが掲示されています



▲14日にはスポーツ大会が開催されました

仮設住宅の入居開始

飯野の35戸に飯館村民

全村が計画的避難区域に指定された飯館村の住民は10日、福島市の飯野地区運動場(旧飯野小跡地)に建設された仮設住宅(三十五戸)への入居を開始した。村民は現地で電気、ガス、水道の申し込み方法などの説明を受け、十一日までに三十一世帯、七十七人が入居した。福島市の一時避難先から仮設住宅に入る八善誠さん(六)、静江さん(四)夫妻は「いいて全村見守り」

住民の早期帰村で意見交わす
東京で飯館村長
中山間地域フォーラムの設立五周年記念シンポジウムは十日、東京都文京区の東大弥生講堂で開かれ、飯館村の菅野典雄村長らが村民の早期帰村の課題について意見を交わした。菅野村長は福島第一原発事故後の苦悩の村の課題に関して討論日々を報告。全村避難の際に策定した「希望プラン」に込めた思いを語り、地域のコミュニケーションの維持や土壌改良を当面の課題に挙げた。

続いて、東大大学院

隊の隊員として村内の防犯パトロールを行っている。誠さんはとても住みやすい環境で安心した。村から近いので通勤時間も短くなる」と話した。村民はこれまで、相馬市や国見町の仮設住宅に入居しており、今月中に伊達市や南相馬市などにも仮設住宅が完成する予定。

菅野典雄村長は「仮設住宅に入居した村民は、早く帰村したいという思いが強い。我々も早く帰村したいという思いが強い。我々も早く帰村したいという思いが強い。」

7月20日
終業式



それぞれが間借りする学校で1学期の終業式が行われました。(写真は草野・飯樋・白石小学校の合同終業式)



▲飯館中学校



▲各幼稚園にはミッフィーが登場しました



▲飯樋幼稚園



▲草野幼稚園

7月15日
第13回村議会
東日本大震災並びに福島第一原子力発電所事故特別委員会



村長から村土壌改良プロジェクトアドバイザー4人に委嘱状が手渡されました。

7月22日
操業継続企業への放射線説明会



独立行政法人放射線医学総合研究所の米原英典氏により「原発事故による放射性物質の健康影響」と題した講演会が開催されました。

7月26日
小中学校教職員の離任式



震災の影響で、本来であれば3月末に行われる予定だった離任式がこの日行われました。子どもたちの心の安定に配慮し、1学期終了後の離任となりました。写真は小学校。

7月20日
健康手帳「までいなか」発行

▶将来を担う子どもたちの健康のために、3月11日以降の行動や健診を記録できる手帳を発行し、18歳以下の全員に配布しました



7月25日
岡本保 総務事務次官 来庁



▲中学校のようす

7月28日
松川第一仮設住宅への入居開始



6月半ば頃から、各仮設住宅で入居申込受付が始まりました。



◀▼3月末に村職員が手書きで用意した入居の振り分け表

7月29日
村塾開講



会場は福島市の尚志学園。中学3年生の受験対策のため7月から12月までの半年間開講しました。



▲「いたて愛」によるよさこい

7月31日
がんばっぺ!ホコ天 飯野・飯館復興祭



村役場機能が飯野町に移転したことから、実行委員会の皆さんが、タイトルに“飯館”の文字を入れてくださいました。「佐須の虎捕太鼓」も参加しました。



▲歩行者天国となりにぎわう町内

8月1日
モンゴル激励コンサート



会場の飯野町大久保小学校には村民のほか飯野町の皆さんも集まり、歌や踊りを楽しみました。日本モンゴル親善協会の主催で行われました。



8月1日
原子力災害に伴う「不耕作による損害」請求説明会



農家の休業補償を請求するための説明会がJA主催で行われました。この説明会は7月27日・29日・30日にも実施されました。

8月5日
篠原孝農林水産副大臣 ひまわり実証ほ場視察



農林水産省が実施している除染の実証試験の進捗状況を確認しました。

8月7日
ドイツ海外研修「未来への翼」結団式



翌日の8日、18人の参加者が、持続可能な社会づくりについて学ぶため、ドイツへ旅立ちました。

8月9日
いいたてまでいな復興プラン庁内検討委員会



飯野町学習センターで2人の講師による基調講演が行われました。

8月10日
元山古志村長・長島忠美衆議院議員講演会



新潟県中越地震で全村避難した旧山古志村の村長を務めた長島忠美氏から当時の話を聞きました。

8月18日
除染方針説明会



土壌除染アドバイザーが職員向けに村の除染方針について説明しました。

8月19日
農林水産省による除染実証実験



伊丹沢地区の水田において、固化剤を用いた表土はぎ取りなどの現地試験が農林水産省によって行われました。(24日、30日にも実施)。

8月25日
始業式



各幼稚園、小学校、中学校の二学期がスタートし、それぞれが間借りする園舎・校舎で始業式が行われました。



▲新しい先生の着任式を行う小学校のようす



▲飯館中学校では始業式の後、宮崎県の細田中学校との短歌交流も行われました

8月30日
第2回いたてまでいな復興プラン庁内検討委員会



9月3日
健康プログラム



健康づくり支援プロジェクトチームが、伊達東仮設住宅で健康プログラムを開始。伊達東公民館を会場に行われました。

9月5日
第2回東京電力福島第一原子力発電所事故災害復興対策特別委員会



汚泥は 賠償は 復興は

復興再生協議会

首長ら政府に憤り 早急な具体策、強く求める

二十日に開かれた、宮城県内閣の下では最初で最後の「原子力災害からの復興再生協議会」被災地の首長、経産、農林水産省の代表は除染の推進や避難の早期帰還への機を政府に強く求めた。佐藤復興再生協議会会長は「放射能汚染の被害を早く示してほしい。下水汚泥はたまる処理場では、悪臭がひどくなる。一方で、廃棄物の処理の工程表を作成するよう。細野隆志原発事故担当相は「本県に放射能汚染の最終処分場を建設しない」と述べた上で、対応を急ぐ考えを強調した。

復興再生協議会会長は「放射能汚染の被害を早く示してほしい。下水汚泥はたまる処理場では、悪臭がひどくなる。一方で、廃棄物の処理の工程表を作成するよう。細野隆志原発事故担当相は「本県に放射能汚染の最終処分場を建設しない」と述べた上で、対応を急ぐ考えを強調した。

復興再生協議会会長は「放射能汚染の被害を早く示してほしい。下水汚泥はたまる処理場では、悪臭がひどくなる。一方で、廃棄物の処理の工程表を作成するよう。細野隆志原発事故担当相は「本県に放射能汚染の最終処分場を建設しない」と述べた上で、対応を急ぐ考えを強調した。

9月5日
「ふるさとへの帰還に向けた取組み」で植えた
ひまわりの刈り取りを実施



9月7日

鹿野道彦農林水産大臣による放射性物質除去
実証実験視察



9月8日

瀬戸内寂聴さん「心のきずな説法」



比曽行政区の主催で約 120 人が参加しました。

9月11日

飯舘絆♥松川ががんばっぺ!! 第 14 回夕暮れコンサート



松川駅前商店会主催、松川町商工会共催のこのイベントは、
村民と松川町の人たちの交流を図るために開催されました。



▲村からは佐須の虎捕太鼓が参加しました

9月9日

復興に向けた村職員ワークショップ



模造紙に付箋を貼りながらアイデアを出し合いました。

9月11日

子育てプリペイドカード交付式



家庭の子育てにかかる経費を軽減し、子どもたちの健全育
成を図ることを目的に交付。17 日にも行われました。

9月11日

松川第一仮設住宅「ふれあい交番」設置



仮設住宅内の防犯や交通安全、生活相談の拠点として福島
県警・福島警察署が設置しました。

9月12日

「いやしの宿いいたて」開所



福島市の飯坂温泉に、飯舘村民の憩いの場、交流の場とし
て開所しました。

9月11日

草野・飯樋幼稚園でミニ運動会開催



園庭が使用できないため、運動会は屋内開催となりました。
草野幼稚園は 38 人が参加しました。



▲飯樋幼稚園も 32 人の園児が参加しました

9月13日

第 3 回いいたてまていな復興プラン庁内検討委員会



9月13日

第 1 回リスクコミュニケーション推進委員会



9月15日
増田明美氏 仮設住宅訪問



産経新聞東日本大震災復興支援未来塾の取り組みで、旧明治小仮設と相馬仮設を訪問。参加者に簡単なストレッチを教え交流を深めました。



福島民友新聞 H23.9.17

9月18日
飯館村敬老会

福島市立飯野小学校体育館で開催し、310人が参加しました。



▶新日本舞踊藤山新流一葉会による踊り



◀代表で敬老祝い金を受け取る井上さん



▲金婚夫妻を代表して 庄司夫妻が登壇

◀村職員愛好会による 南京玉すだれ

9月19日
絆つながる「までいな一日。」

「飯館村民や飯館を愛する人々が集える時間をつくろう!」と実行委員会が組織され、松川第一仮設住宅駐車場で開催。当日は約1,500人が参加しました。



◀オレンジクロウバーによる 沖縄音楽の演奏

▲参加者も一緒に踊ったフラダンス



▲比曽行政区の三匹獅子舞



◀学生ボランティアが活躍したキッズコーナー

▶加藤登紀子さん、までい大使のYaeさんらによるステージ



▲東京の美容師たちによる無料ヘアカットコーナー

9月20日

第4回いいたてまでいな復興プラン
庁内検討委員会



9月21日

自見庄三郎内閣府特命担当大臣
(金融担当) 来庁



9月30日

平成23年度飯館村表彰式



表彰式は飯野出張所で行われました。



▲受賞者を代表し謝辞を述べる佐藤隆明さん

9月27日

村が東京電力への損害賠償手続きに関して注意喚起する文書を全世帯に配布



9月30日

いいたて全村見守り隊隊員に感謝状



10月4日

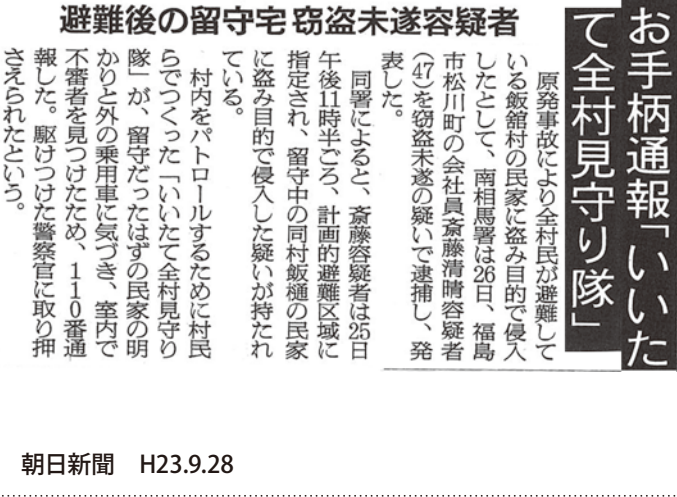
村事業者用仮施設完成式



相馬市、川俣町、福島市松川町に建設された施設の完成式が行われました。



▲施設内ようす



10月8日
コスキン・エン・ハポン 2011



川俣町内の学校で学習している小学生 19 人が招待され、オープニングパレードに参加しました。



アルゼンチン風ドレスやポンチョを身にまとい、演奏や踊りを楽しみました。

10月8日
ドラえもんミュージアムに招待



川崎市による子ども・子育て応援ツアー（二泊三日）が開催され、小学生とその保護者ら 174 人が参加しました。



▶映画のキャラクターと記念撮影

◀ドラえもんミュージアムを満喫しました

10月13日
第5回いたてまでいな復興プラン庁内検討委員会



10月19日
第1回いたて復興計画村民会議



10月23日
秋季検閲式



飯舘村公民館を会場に行われ、村消防団員や女性消防隊員など約 140 人が参加しました。

10月26日
いいたてカーネーションの会活動中



春から活動していた松川第一仮設住宅の縫い物サークル。毎週水曜日に集まり、「までい着」や「綿入りはんでん」などを制作します。

10月24日
さだまさし氏、南こうせつ氏 来庁



▲活動のようす。写真は 2012 年 2 月 21 日撮影のもの

10月26日
いいたてまでいな復興会議 仕事部会



10月26日
みんなの党・渡辺喜美代表 来庁



10月28日
「サポートセンターあづまっぺ」が松川第一仮設住宅に開所



10月30日
飯館中学校文化祭「赤蜻祭」



会場は川俣町中央公民館。合唱や太鼓、よさこいなどを発表しました。

11月3日
飯野収穫祭



飯野町のイベントに飯館村民も参加し、避難先で作った野菜や加工品を販売しました。

人と人つながる施設に

福島サポートセンターあづまっぺ

相談員常駐、交流を促進

仮設住宅 いま

福島民友新聞 H23・10・30

11月2日
中間処理施設説明会



飯野出張所で中間処理施設の説明会が開かれました。

11月4日
第2回いいたて復興計画村民会議



11月9日
中学生による特別授業



未来の翼に参加した中学生が、ドイツで学んだことを伝える授業を福島大学で行いました。

11月18日
第3回いいたて復興計画村民会議

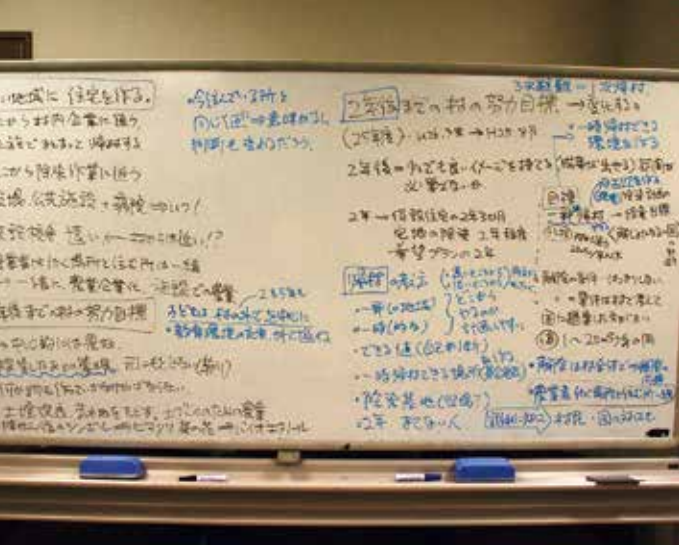


11月20日
第23回ふくしま駅伝に参加



オープン参加で8区からの出場となったものの、選手たちが力走を見せた大会となりました。

11月11日
復興プランの村職員による検討



避難実態調査の
中間集計を報告
いいたて復興会議
東京電力福島第一原
発事故により全村避難
が続く飯館村のいいた
て復興計画村民会議の
第三回会議は十八日、
福島市飯野町の飯野学
習センターで開かれ
た。

委員十六人が出席。
村が二千六百五十世帯
に郵送した避難実態調
査の十月現在の中間集
計概要を発表した。支
出が増えて厳しい経済
状況、要介護者の増加
など健康悪化、子ども
の心身不調の訴えが目
立っている。住まいが
狭い、買いた物が不便、
友人と会えないなどの
ストレスを抱えている
。放射線量、除染、
生活支援情報などをネ
ットでなく広報紙で知
らせてほしいとの要望
が70％を占めた。
二十八日にも会議を
開き、十二月六日に答
申案を討議する予
定。

福島民報新聞 H23・11・19

11月21日
衆議院環境部会



衆議院議員が飯野出張所に集まり行われました。

あづまっpegラウンド・ゴルフ大会



秋空の下、24日までの3日間開催されました。

11月25日

第3回飯舘村除染計画説明会



小宮行政区の村民を対象に飯野出張所で行われました。

11月29日

除染モデル事業説明会



環境省職員が草野地区の村民を対象に開催しました。

12月1日

総合健診



1日から10日までの期間、19歳以上を対象に仮設住宅や飯野学習センター等で実施しました。

11月26日

両幼稚園でおゆうぎ会を開催



▲草野幼稚園



▲飯樋幼稚園

11月28日

第4回いたて復興計画村民会議



飯館、深刻な従業員離れ

通勤・放射能不安が壁



計画的避難区域で稼働を続ける事業所を回り、放射線量を測る業者＝28日、福島県飯館村、相場郁朗撮影

[illegible]

朝日新聞 H23.11.29

国は地方に裁量権を

全国町村長大会 飯舘村長が意見

全国町村長大会は三十日、東京・渋谷のNHKホールで開かれ、被災地の首長を代表して飯館村の菅野典雄村長が意見を発表した。菅野村長は東京電力福島第一原発事故による村の被災状況を説明し、「国は除染に対する認識が甘い。ほかの予算を削ぐても除染を進めるのが国としての責任だ」と強調。国は自治体を用い、地方に裁量権を与えるように訴えた。

さらに「本当の幸せや豊かさを国民一人一人が考え、三十年後の日本が世界から尊敬されるように行動しよう」と呼び掛けた。宮城県南三陸町の佐藤仁町長も意見を述べた。大会には全国の町村長ら約千五百人が出席した。原発事故の早期収束や国の責任する除染、損害賠償の早急な



全岡町村長大会で意見を発表する菅野村長（中央）

福島民報新聞 H23.12.1

12月6日

第5回いたて復興計画村民会議



七五三激減
祭り中止でも
飯館の宮司
毎朝祝詞

A large group of children, mostly of elementary school age, are sitting on the floor in a gymnasium. They are all wearing colorful party hats and are looking towards the right side of the frame. A person dressed as Santa Claus, wearing a green suit with white trim and a white beard, is walking towards the children. The gymnasium has a wooden floor and large windows in the background.

A group of people, many wearing yellow hard hats and safety vests, are gathered outside a building. Some are kneeling in the foreground, while others stand in the background. A man in a dark jacket is speaking to the group.

2011 年 (平成 23 年) 12 月 83

平成 22 年度飯舘村幼稚園小学校 卒園卒業式



▲歌手の岡本真夜さん。
「TOMORROW」などを
歌い、子どもたちを励
ました



▼▶卒園・卒業証書は在校時の校長から一人ひとりに手渡されました



▲村内取材など企画から協力した、俳優でリバースプロジェクト代表の伊勢谷友介さん



▲かわいい着ぐるみも登場！



◀漫画家・鳥山明氏の協力で、アニメのキャラクターが村の子どもたちにお祝いのメッセージを贈りました

村農業者等との意見交換会



農地除染対策実証事業にかかる農業者等との意見交換会が、
鹿野農林水産大臣の出席の下、行われました。

林野庁・皆川芳嗣長官 来庁



内部被ばく検査のようす



12月27日から1月28日までの一か月間、飯野出張所に移動式ホールボディカウンタが設置され、内部被ばく検査を行いました。

第2回飯館村避難村民自治組織連絡協議会



末年始の人の出入りが落ち
善き、住人たちに元の避難
生活が戻ってきた。
年末8日夕方。普段は
妻と二人暮らしの佐藤義
さん(79歳)には、長男の浩
さん(50)客来。親戚の計8
人が加わった。4畳半の居
間のことを、お母さんが、
自治会が用意した年越しそ
ばを食べて、
年は明け、重義さんは飯
館村の自宅にいったん戻
り、飯所に餅上りした。ま
た仮設に移り、5日はさら
ぶらと散歩をした。「久し
ぶりに雪を見て、楽しい
ひとときだった。今度の年
越しは村の豪進だったの
ねえ」と話した。

朝日新聞 H24.1.6

平成 24 年飯舘村成人式



飯野学習センターで行われ、平成3年4月2日生まれから平成4年4月1日生まれまでの新成人80人（男40人・女40人）のうち65人が出席して新たな門出を祝いました。

除染モデル実証事業のようす



12月～1月の一か月間、草野大師堂地内や村内継続事業所などで環境省による除染モデル実証事業が行われました。写真はいいたてホーム外庭の除染風景。



▲草野地区の森林枝打ち



▲(株)菊池製作所のアスファルト切削



▲公民館の洗浄



▲ハヤシ製作所建屋の洗浄



▲草野小学校グラウンドの切削

1月8日

平成 24 年飯舘村消防出初式



消防団員、女性消防隊員など 122 人の消防関係者が出席しました。

1月11日

草野・飯樋幼稚園で始業式



教育長が、福島市飯野町に建設される仮設園舎について、園児に伝えました。

1月16日

第1回除染事業に関する組織立ち上げ会議



大きな荷物を持ち、間借りする川俣中に登校する飯塚村の児童＝川俣町

県内小中学校で始業式

飯館の児童 避難先の川俣で登校

県内の公立小、中学校で「トモ 児童、生徒が元気に1日、一部を除く3学期 登校し、新年を迎えながら冬の始業式が行われ、1年間に笑顔があふれた。県民づくりの学季スタート 東京電力福島第一原子力発電所」

故に早い、計画的避難区域になつてはいる飯館小学校、野崎、飯坂、白の3小学校の児童もここへは間借りする川俣町の川俣中心で合宿生活に離れ、「二谷三石」の3小学校が「二人一人の頑張り」を希望しながら、目標を持って頑張ろう」とあいさつ。各校の表が休みの思ひ出や新年の抱負を発表した。3校は冬休み中に児童らが避難先から戻ってきたことだ。

南相馬の3小学校自校での授業再開また、東日本大震災と原発事故の影響で他校に間借りして授業を行ったという南相馬市原町区の順町、高平、太田の3小学校は、3

学期の始に合わせ、各校での授業再開。校舎には元氣な笑ひが満ちた。3校とも学校施設や学校周辺の道路などの除染が完了、無害の修繕が済んだことが公開。藤野二小では始業式で主幹一校長は「ありがたう」の気持ちを表しながら豪々と発表し、新学期にしてより進んで児童と再開を喜び合った。

福島民友新聞 H24.1.11

1月17日

常陸宮さま両殿下が避難者を励ます



常陸宮さま、華子さま両殿下が松川第一仮設住宅とサポートセンター「あづまっぺ」を訪れ、避難中の村民を励まされました。

震災復興支援事業で飯館村に車2台贈る
北海道の国際ロータリー北海道西部の国際ロータリー第2510地区（熊沢直樹会長）は14日、東日本大震災復興支援事業として、飯館村に車両2台を贈呈した。のはローラフイーグル2台（450万円相当）で同地区のクラブ会員の浄財で寄付。本県の国際ロータリー第2530地区（根本彌方会長）がパートナー地区として、同村の贈呈を仲介した。



熊沢、根本両ガバーナが
福島市の村飯野出張所を訪
問。熊沢ガバーナは引き続
き支援を続けていきたい
とあいさつ、根本ガバーナ
とともに菅野典雄村長に
車両の鍵を贈呈。菅野村長
は「震災復興のさまざまな
場面で車両を使わせていた
だきたい」と謝辞を述べた。

福島民友新聞 H24.1.20

1月19日
平野博文文部科学大臣が村の小学校を視察



1月24日
放射線リスク講演会



中川恵一氏を講師に招き、飯野出張所で開催されました。

1月28日
飯館村直売所松川店 オープン



「仮設住宅内の利便性の向上」や「避難生活中的の営農意欲維持」などを目的に村直売所連絡協議会が運営しています。

1月23日
はるな愛さんが仮設住宅訪問



松川第一仮設住宅を訪れ、豚汁などの炊き出しを行いました。

1月26日
線量計配布式



▲幼稚園で行われました。0歳から15歳の子どもがいる世帯と妊婦のいる世帯、あわせて約500世帯が対象となりました



◀先生から説明を受ける園児と保護者 ▶配布された積算線量計

1月29日
絆つながる「ふくしまの春」



福島駅東口などを会場に行われ、村からは「佐須の虎捕太鼓」と「比曽の三匹獅子舞」が出演しました。

福島で初の原賠審

東京電力福島第1原発事故に伴う損害賠償の指針を決める原子力損害賠償紛争審査会（会長＝能登善久・学習院大教授）が27日、福島県郡山市で開かれ、避難区域の再編によって影響を受ける12市町村長らが意見を述べた。福島での開催は初めて。首長らは再編後の賠償指針を早く策定するよう要求。住民が帰郷できても営業困難や作付け制限など新たな経済的損害が生じると指摘した。

賠償の対象期間については山田基雄広野町長が「3・11前に近い生活ができるようになるまで補償してもらいたい。（古里に）戻って生活したいと強く思っている」と要望。現在、計画的避難区域に指定されている飯館村の菅野典雄村長は、放射線量が線引きする再編によって自治体が分断されると指摘。何とかみんな同じ方向を向いて頑張ろうとしているのに、国の政策は逆を向いている」と批判した。再編後の賠償の程度によっては住民の間に不公平感や格差が生まれることへの不安も表明された。

税収減や経費増など自治体の損害を訴える声も相次いだ。浪江町の馬場有町長は「広報紙やいろんな通知を避難者に送るための郵送料は約7000万円。普通の年なら3000万円で済むのに。南相馬市の桜井勝延市長は「介護施設がないため在宅介護を迫られるなど、今年3月までの1年間で職員が110人も早期退職を余儀なくされている。我々の」

自治体で起きているのはメルトダウン（炉心溶融）だと訴えた。熊谷市長は会合後、どういふものが優先度も高いものが多い。国は分かっているのに、ではないか」と話した。【野田武、日下部聡】

毎日新聞 H24.1.28



◀快晴の空に放ったバルーンリリース



▶街なか広場で演奏する村民

磁粉体製造装置
汚染物質を減容
飯館で除染実験

放射能汚染物質を減容、除染する磁粉体製造装置「マグセラ」の公開実験が三十日、飯館村の村森林組合石材加工センターで開かれた。

グリーンライフデザイン（東京都）の小松幸雄技術開発部長が開発した。低酸素状態にした炉内で、熱を磁石の磁力線を使って千度程度に増幅、一カ月で容積二百分の一のセラミック灰にする。燃料電力を使わないため二酸化炭素、ダイオキシンが発生しないという。樹木、落ち葉、乾燥汚泥、乾燥堆肥などを処理できる。灰はサンビクトル（東京都）が開発した除染水溶液で、一時間で放射性物質を半減させるといふ。現在の商品では最大五立方メートルの炉で、基本価格は三千万円。県、市町村担当者、大手ゼネコンなどの約七十人が見学した。福島市の協力会社などみ村が見学会をサポートした。

福島民報新聞 H24.1.31

2月7日
懇談会のようす



この日から26日までの間、福島市2か所、伊達市、相馬市、川俣町の計5か所で住民懇談会が開催されました。写真は初日の飯野町学習センターのようす。

2月8日
第1回村行政機構改革審議会



飯館村の菅野典雄村長は十三日、官邸で野田佳彦首相と会談し、避難区域の見直しに住民の意向を反映させるよう要望した。

菅野村長は「避難区域の見直しで心を一つに頑張ってきた村が分断される。地元のことをくんだ上で見直してほしい」と述べた。避難指示を解除する場合は雇用や教育、住宅などの受け皿の準備も迅速に進めるよう求めた。

これに対し、野田首相は「線引きは一般論では放射線量で判断するが、しゃくし定規に

福島民報新聞 H24.2.14



2月8日、伊達市

2月11日
普天間かおりさん 避難村民を慰問



仮設住宅等への慰問を継続している普天間さん。この日は吉倉公務員宿舎を訪れ、絵本朗読や歌の披露などを行いました。

避難区域見直し
住民の意向反映を
飯館村長が首相に要望

飯館村の菅野典雄村長は十三日、官邸で野田佳彦首相と会談し、避難区域の見直しに住民の意向を反映させるよう要望した。

菅野村長は「避難区域の見直しで心を一つに頑張ってきた村が分断される。地元のことをくんだ上で見直してほしい」と述べた。避難指示を解除する場合は雇用や教育、住宅などの受け皿の準備も迅速に進めるよう求めた。

これに対し、野田首相は「線引きは一般論では放射線量で判断するが、しゃくし定規に

2月12日
いいたて村民ふれあい集会

パルセいいざかで開催され、村民およそ1,100人が参加。震災後の村の取組についての発表もありました。



▲10大ニュースのランキングを当てた村民へ賞品贈呈



◀アトラクションでものまねを披露した斎藤京子さん
▲いいたてお母さんコーラスは参加者とともに村民歌を歌いました

2月24日
相馬西地区仮設商業施設のようす



2月27日
飯館中・川俣高 合同音楽鑑賞会



6年前に飯館中学校で演奏したことのあるセントラル愛知交響楽団から、「被災地を応援したい」と申し出があり、川俣高校体育館で開催されました。

2月27日

第 1 回いいたてまでいな復興計画推進委員会



村長が、大学教授などの有識者や村民の代表、村議員、村職員などに委嘱状を交付。村がたたき台として提案した「いたて版復興スマート・ビレッジ計画」に対し、委員から課題や意見が出されました。

2月28日

村農業委員会が建議書を提出



「除染前の空气中線量を土壌中の放射性物質について、きめ細かく実態調査を実施すること」「農業再開後、農業者の農業経営が安定するまでの長期的な支援システムを早急に構築すること」など5つの要望をまとめた建議書を村長に手渡しました。

3月1日

平成 23 年度 卒業式



相馬農業高校飯舘校卒業式は、福島学院大学のホールで行われました。

飯館中学校卒業証書授与式は、3月13日に川俣中央公民館で挙行されました。

2月28日

第2回飯舘村行政機構改革審議会



原子力災害対策により適した組織づくりを進めるため、村は、「産業振興課」を廃止し新たに「生活支援対策課」「復興対策課」を設け、また「教育課」「生涯学習課」を統合再編し「教育課」とすることを諮問し、委員から意見や質問が出されました。

2月28日

村内の仮仮置き場



国が実施した除染モデル事業で発生した土、木の枝、腐葉土などの除去物は、原子力災害対策特別措置法に基づいて設置される仮置き場が完成するまで小宮沼平地内のクリアセンターで一時的に保管されています。

3月3日

防火訪問



村消防団、女性消防隊、南相馬消防署飯館分署職員などが仮設住宅を防火訪問しました。

村会 安否確認双方向システム
館議 開発などの予算を可決

飯館村の三月定例議
会は六日開会した。会
期を十九日までの十四
日間と決めた後、萱野
典雄村長が四十五億千
八百六十万円の平成二
十四年度当初予算、二
億三千七百九十六万円
を増額する二十三年度
一般会計補正予算など
二二議案を提出し
た。補正予算六議案を
審議し、原案通り可決
した。

補正予算には、タフ
レット端末を使い安否
確認や地域情報など村
と住民の双方向コミュ
ニケーションを実現す
る、村民の声ネットウ
ークシステム構築、ト
向けたシステム開発、
工事費一億四千百十七
万円が盛り込まれた。

端末は県外などの避難
者も含む全二千七百世
帯に配り、七月の運用
を目指す。当初予算案
には、いたて全村見
守り隊や福祉関係の村
臨時職員など緊急雇用
の人員費八億四千九百
二十九万円、ホールボ
ディーカウンター（二

台 購入費四千五百九
万円、小学校仮設校舎
の賃借料五千二百十万
円を計上した。八、九
の両日に一般質問を行
い、六人が登壇する。

2月29日

確定申告のようす



飯野学習センター青木分館を会場に行われました。写真は待合スペースのようす。

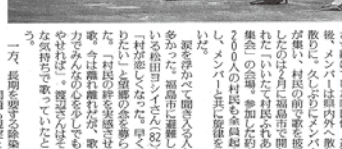
[illegible]

旋律が紡ぐ「望郷」

山 麓にわく、水 湧かな
 さらさら、微風、わね
 東風は舞を舞う、田舎路故
 で余り無難な道に歩み
 されたい。望郷の心は、故
 郷に表れては、故郷の故郷
 の心を表わす。町にいた
 ておるが、あんな、いた
 の道に、あんな、いた、
 の道に、あんな、いた、

帰村と再集合を信じ

山 麓にわく、水 湧かな
 さらさら、微風、わね
 東風は舞を舞う、田舎路故
 で余り無難な道に歩み
 されたい。望郷の心は、故
 郷に表れては、故郷の故郷
 の心を表わす。町にいた
 ておるが、あんな、いた
 の道に、あんな、いた、
 の道に、あんな、いた、



「望郷」の旋律を、あんな、いた、
 の道に、あんな、いた、
 の道に、あんな、いた、

ふくしまの
 底
 デカブ

「望郷」の旋律を、あんな、いた、
 の道に、あんな、いた、
 の道に、あんな、いた、

3月11日
3.11 ふくしま復興の誓い 2012



震災から一年の節目となったこの日、県主催で復興に向けたシンポジウムや追悼式が行われ、県内7か所をつなぐキャンドルナイトには村の子どもたちが参加しました。



▲ミニライブには岡本真夜さんが登場。村の子どもたちと一緒に「TOMORROW」を歌いました

3月11日
日本テレビ「復興テレビ みんなのチカラ 3.11 復興支援ライブ」で飯館中3年生がゆずと共演



▲共演後の記念写真。会場はイズミティ21(仙台市)

飯館の子の夢 カードで紹介

飯館村の子どもたちの夢が書き込まれたプランターと企画した塚越さん

飯館村の子どもたちが書いたプランターに取り付けた。「おじいちゃん、おばあちゃん、一緒に暮らしたい」「村に帰りたい」という切実な願いもあ

JR渋谷駅近くからNHK前まで続く渋谷公園通りに百六十台を配置した。マーガレットなどの苗が植栽さ

ードを、たるを再利用れ、一週間ほどで開花

飯館の避難者 お茶会で交流

原町 健康相談や体操楽しむ

飯館村から南相馬市原町区の借り上げ住宅で開かれた。村社会福祉協議会の象にしたお茶会は十五

主催、二十八人が出席、スポーツレジャー

高橋世津子事務局長、門馬秀夫市社会福祉協議会長があいさつした。北海道から支援を受けた避難者がフレスコされた。借り上げ住宅避難者は、十六日伊達市の保原中央公民館で開いた。二十一日午後一時、近況報告を深めるお茶会参加者

渋谷のプランターに設置

飯館村の子どもたちの夢が書き込まれたプランターと企画した塚越さん

する。花々は渋谷の街を彩った後、四月中旬にメッセージを寄せた子どもたちに贈る。企画した渋谷公園通商店街振興組合の塚越栄光さんは「渋谷の若者に被災地の声を届け、子どもたちの夢の実現へ支援の輪を広げたい」と話している。同村のいたてホームやいわき市の大和田自然農園の関係者もカードにメッセージを寄せた。

3月16日
草野・飯樋幼稚園 修了式



避難先の園舎で修了式が挙行されました。写真は修了証書を受け取る草野幼稚園の園児。



飯樋幼稚園の園児も家族に見守られる中、修了式に臨みしました。

3月17日
むし歯ゼロの子表彰式



福島市飯野学習センターで開催され、表彰を受けた18人の子どもたちには、村長から賞状とメダルが贈られました。

3月17日
内部被ばく検査についての子育て講演会



講師は東京大学医科学研究所研究員の坪倉正治医師。食生活での注意点や検査継続の重要性などについて説明しました。

3月22日
第2回いたてまでいな復興計画推進会議



3月23日
草野・飯樋・白石小学校卒業証書授与式



間借りする川俣中学校体育館で行われました。

3月23日
草野地区除染モデル事業結果説明会



▲環境省職員による報告を聞く村民

3月24日
第2回飯舘村未来への翼プロジェクト事業



飯舘村の中学生19人が、ドイツ研修へ出発しました。

4月9日～12日
避難区域見直しに関する説明会



環境省職員も参加し、9日から12日までの期間で4回開催されました。(写真は保原市民センターのようす)



▲福島県青少年会館で開催された説明会のようす

4月3日
経済産業省職員が来庁



避難指示区域の見直し案について説明しました。

4月6日
第3回いいたてまでいな復興計画推進委員会



福島市の中町会館で開催されました。

4月9日
入園式



福島市飯野町に建設した仮設園舎で、草野・飯樋幼稚園の入園式が挙行されました。

4月10日
入学式



相馬農業高校飯舘校の入学式は、敷地内に仮設校舎を建てた福島明成高校の体育館で挙行されました。

4月6日
草野・飯樋・白石小学校入学式



3月末に完成したばかりの仮設校舎の体育館で、3つの小学校の合同入学式が行われました。

4月6日
飯舘中学校入学式



川俣町中央公民館のホールで開かれ、新1年生36名が、ステージ上で入学許可を受けました。

4月17日
草野・飯樋幼稚園 仮設園舎開園式



▲オーストラリアから贈られた大型遊具の前で記念撮影

►式の後にはケン・ダニエルさんによるマジックショーを楽しみました



◀園舎を寄贈した小松製作所執行役員塩坂氏(左)と、遊具を寄贈したオーストラリア駐日大使ミラー氏に花束を贈呈しました

福島県知事・佐藤雄平氏 来庁



世界の放射線専門家との直接対話集会



チェルノブイリ原発事故後の子どもの健康調査活動を行った専門家など5人が来庁し、参加者と意見交換する対話集会が開かれました。

草野・飯樋・白石小学校 仮設校舎開校式



4月6日に入学式が挙行された体育館。ステージには3校の校旗が並びます。



▲
3校それぞれの
校歌を斉唱する
児童たち

▲仮設校舎の外観



2012 飯舘村特養専属医師 池田正昭さん 65

2012 今を生きる カラオケは入所者への妙薬



入所者とデュエットする池田さん（右）

福島市平坂町の池田病院
長池田正三さんは、全
村避難の館村で連日苦
められてゐる村特別養老
ホームに入居した。ホ
ームを毎週木曜日に訪れ、健康
チェックと自慢のカラオケ
で九十三の入所者を交
へてゐる。十九日も診察を
入所者と二輪車「デュ
エット」。

ホーの医療を担当して
た村蓮の医療機関とい
なれてクリニックは、全
村避難で診療停止した。放
射線量の低減室内で過す
お年寄りは、避難しな
がらリスク低い」と、豊野

典雄村長が国に要望し、基
準を満した企業と一緒
に開設がめられた。

いながらクリニックで診
療は三股が美施設の依頼
を受け、週一回の診察を引
き受けて。専ら医師とし
て、深谷も福島市から駆け付
て、献身的な対応を行って
ゐる。

趣味はカラオケで各地の
大会を優勝している池田さ
んは、リハビリの「調」と
オケ生肉に立派なカラ
オケ生肉に目を奪われて
ゐる。

診療の後には、リクエストに
応え自慢のどて入所者を
「すこ」に示すのが

薬ませるとともに、デ
ュエットも。職員は飛び入り
もあふ。入所者はインパ
リ、マラスを唱して応
援も。楽しいひとときがで

仕事の診察は一時間半、
サビスのカラオケタイム
は「時間も続く。毎週木曜
の午後を楽しみにしてゐる
利用者の顔は生き生きとし
てきた。」「患者が友達とな
りになった。」「あつてねと
言れると、うれしい」と
入所者さんへ話した。

池田さんの最長年齢は九十九
歳で、平均年齢は十四歳
で、三施設施設は「話

共に楽しみ心はつらつ

福島民報新聞 H24.4.22

避難区域見直しにかかる行政区の動き

避難区域見直しに関する意見交換会



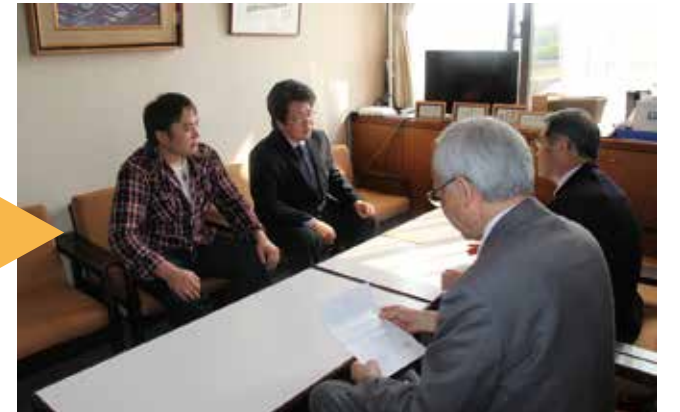
避難区分の見直しにより、帰還困難区域に指定されることとなった長泥行政区及び居住制限区域に指定された15行政区のうち、比較的高線量の区域を含む前田八和木行政区・比曽行政区・蕨平行政区から要望書が出されました（写真は5月11日、前田八和木行政区と村との意見交換のようす）。

各行政区への回答



各行政区から出された要望に対し、国や村、村議会が回答を提出しました（写真は 5 月 30 日、国が蕨平行政区に回答を手渡すようす）。

各行政区が村へ「要望書」「陳情書」等を提出



意見交換会を経て、各行政区から村へ「避難区域見直しに係る陳情書」や「除染並びに区域見直しに伴う生活保障に関する要望書」、避難区域見直しについての「意見書」などが提出されました（写真は5月8日、比曽行政区から意見書を受け取る村長と副村長）。



▲長泥行政区には6月5日に、前田八和木行政区には6月6日に村からの回答が渡されました

4月26日
第4回までいな復興計画推進委員会



写真の飯館中学校仮設校舎をはじめ、村内、村外の施設を視察しました。

5月9日
飯館村除染にかかる行政区説明会



行政区ごとに計12回開催。この日は、二枚橋・須萱行政区の村民を対象に二枚橋集会所で行われました。

6月1日
第一回いたて健康リスクコミュニケーション推進委員会



放射線についての情報提供や勉強会をどのように進めていくかを話し合う取り組みが始まりました。

6月1日
松下忠洋復興副大臣 来庁



5月15日
飯館校の生徒たちとの支援・交流の会でケーキ作り



相馬農業高校飯館校の生徒にケーキ作りを楽しんでもらうと、福島大学行政政策学類の学生有志が企画しました。

5月17日
健康教室



県と村が共同で行う健康教室が各仮設住宅で行われています。この日は国見・上野台仮設住宅で、タオルを使ったストレッチなどが行われました。

6月1日
第5回までいな復興計画推進委員会



▲意見をボードにまとめたもの



▲議論のようす

5月24日
原子力損害賠償についての弁護士講演会



希望者から個別に相談を受ける無料弁護士相談会を計10回開催。それに先立ち、この日は村の顧問弁護士である鈴木芳喜氏が講演を行いました。

5月30日
仮設住宅で花植えボランティア



相馬農業高校飯館校の2年生が、明成高校敷地内の仮設校舎から、徒歩と電車で松川第一・第二仮設住宅を訪れ、ペゴニアの花を植えました。

6月2日
「かーちゃんの力・プロジェクト協議会」のさなぶり



さなぶり（田植え後の手休めに柏餅やおこわを作ってふるまう行事）が、福島市松川町「あぶくま茶屋」で開催されました。当日は天候に恵まれ、近隣の人もたくさん訪れました。



あぶくま地域の女性農業者による「かーちゃんの力・プロジェクト協議会」は、おふくろの知恵を復興に役立てるため、福島大学小規模自治体研究所が住民団体と協力し設立しました。

6月4日
お茶会のようす



村社会福祉協議会の主催で、川俣町内の借り上げ住宅に避難している村民が集まるお茶会が開催されました。血圧測定やストレッチなどを行いながら、おしゃべりを楽しみました。

6月11日
村の方針決定にともない通知文を国へ提出



「避難指示区域の見直し」に係る村の方針決定にともない、村は通知文を原子力災害対策本部に提出しました。

6月17日
第6回までいな復興計画推進委員会



▲その場で出た意見を模造紙にまとめるようす

6月15日
環境省による先行除染のようす



「までいな家」とその周辺を除染するようす。



6月17日
子どもの遊びと心の相談会



リスクコミュニケーションの一環として開催され、12組の親子が参加。子どもたちが自由に遊ぶ中、保護者向けの個別相談や座談会が実施されました。

6月20日
ルーマニア公使 来庁



6月15日

避難区域見直しの決定を国が村に通知。



6月22日
飯館村役場飯野出張所 開所一周年



飯野支所の一部をお借りしている福島市の皆さんへ感謝を伝える横断幕を掲げました。

6月28日
第1回飯館村までいな除染会議



6月30日
までいな復興計画推進委員会の答申



これまで話し合った内容を答申にまとめ、「いいたまでいな復興計画第2版(案)」とともに村長へ手渡しました。

7月1日・8日
子育てプリペイドカード交付式



平成24年4月1日に村に住所がある子どもと、平成23年3月11日以降に村から住所を移動した子どもの計785人にクオカードと図書券を交付。写真は1日のようす。

7月1日
避難指示区域見直しに係る住民懇談会



長泥行政区の村民を対象に、飯野出張所で開催しました。



▲答申前の協議で内容を確認するようす

7月1日・8日
健康講演会



1日は小児科医の竹内真弓先生が「放射線リスクと子どもの成長」と題し、8日は東京医療保健大学の伴信彦教授が「低線量放射線の健康リスクについて」と題し、講演しました。

7月3日
東京電力役員 来庁



東京電力の新役員が来庁し、村民へ謝罪しました。

7月4日
プール授業スタート



あづま総合運動公園内の室内プールで草野・飯樋・白石小学校のプール学習が始まり、楽しそうな歓声が響きました。

7月13日
情報タブレット配布スタート



村からのお知らせや放射線情報等の提供のほか、村民同士の連絡手段としても活用できるタブレット端末が1世帯に1台(複数世帯に分かれて生活している世帯には2台まで)配布されました。



福島民報新聞 H24.7.16

7月9日
携帯型線量計貸与スタート



▲村職員から使用方法について説明を受けるようす

復興へ期待と懸念



7月17日
避難指示区域見直し運用開始



午前0時をもって村は、避難指示解除準備区域・居住制限区域・帰還困難区域の3つの避難指示区域に再編されました。帰還困難区域となった長泥地区へ向かう道路にはバリケードが設置され、一般の立ち入りはできなくなりました。



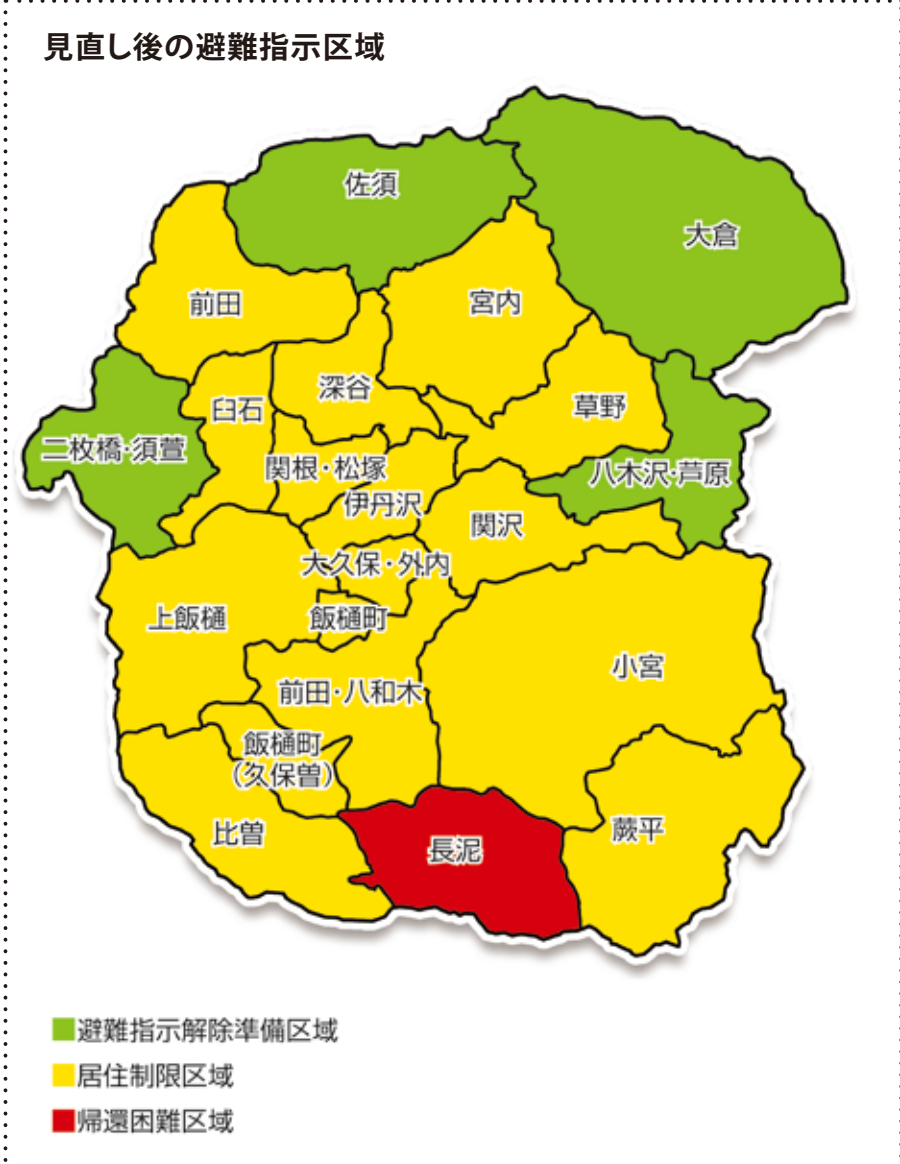
▲区域再編後も村内の治安を守る、いいたて全村見守り隊



▲除染が続く村内



▲バリケードは長泥へ向かう6つの道路に設置されました



区域見直しにより、避難指示解除準備区域と居住制限区域では、製造業や金融機関、ガソリンスタンド等一部の事業所の再開が可能になりました。

7月17日
吉田泉復興副大臣 来庁



7月17日
白石行政区除染説明会



7月19日
あなたにつなぐ飯館絵本リレー事業



この事業は、村教育委員会が平成22年度から行っており、全国から寄贈された絵本は5万700冊に達しています。今回は仮設の小学校・幼稚園に通う子どもたちへ一人2冊ずつプレゼントされました。

7月17日
東京電力福島原子力発電所事故調査委員会
(国会事故調) 来庁



7月18日
柳沢光美経済産業副大臣 来庁



7月19日
内閣府の「女性のチャレンジ賞」受賞



輝いている女性個人や女性団体を表彰する賞に「いいたてカーネーションの会」代表の佐野ハツノさんが選ばれました。受賞のテーマは「防災・復興」でした。

7月19日
小惑星「iitatemura」認定の報告



田村市「星の村天文台」の大野裕明台長が来庁し、小惑星の命名を報告しました。この小惑星は、火星と木星の間の軌道を回り、大きさは磐梯山くらいだそうです。

7月19日
除染セミナー



除染作業の一部を地元の建設業者や農家が請け負う体制を進めるためのセミナーが開催され、トラクターを使った農地除染の方法が紹介されました。

7月20日
飯館中学校が川俣高校・ハナさんとお別れ



2学期から飯野町の仮設校舎で授業が行われることとなり、1学期最後となるこの日、お世話になった川俣高校とのお別れ会が開かれました。

▶平成22年8月から英語指導助手をつとめたハナ・サンプターさんもこの日が最終日



◀宅配弁当が給食代わりでした

7月24日～31日
未来への翼 in イタリア



▲村の中学生22人が出発！



福島民友新聞 H24・7・28

7月30日
居住制限区域内で6社が事業再開



避難指示区域の見直しに伴い、自動車会社や信用金庫など6社が特例で再開できることになり、国の許可証が各社の代表に交付されました。

8月1日
村所有のホールボディカウンタによる検査開始



福島市のあづま脳神経外科病院に設置されている村所有のホールボディカウンタによる内部被ばく検査と甲状腺検査が始まりました。



8月2日～10日
夏休みオーストラリア研修



村の中学生16人が参加しました。

8月8日
情報タブレット本格運用開始



情報タブレット端末の本格運用が始まり、飯野出張所で「オープニングセレモニー」が開かれました。またセレモニーの後半には、テレビ電話機能のデモンストレーションが行われました。



無人トラクターで除染 飯館
東京電力福島第1原発事故の影響で全村避難している福島県飯館村で19日、農業機械メーカーなどが、開発した農地除染用の機械8台を来訪した。住民ら約40人が参加。土ぼこりによる内部被ばくを防ぐため、田んぼの表土を削り取る機械を装着した無人のトラクターを遠隔操作するなど、新たな除染技術が紹介された。放射線の被ばく量を減らすため、運転手の要らぬで稼働したトラクターも披露された。
【三村崇博】

8月22日
リスクコミュニケーター養成講座



職務の中でリスクコミュニケーションに関わる人を対象に、飯野出張所に伴信彦先生を招いてリスクコミュニケーター養成講座が行われ、役場職員や生活支援相談員などが参加しました。

8月27日
飯館中学校が仮設校舎で新学期をスタート



福島市飯野町の川口電機製作所跡を整備・改築して整えられた飯館中学校仮設校舎。内装に木材がふんだんに使われた校内は明るく、6つの教室の他、5つの特別教室や多目的ホール、職員室等が設置され、校庭も整備されました。川俣高校の教室を間借りして1年半余り。夏休み期間中に引越しを済ませ、再スタートをきりました。

8月27日
学童保育・預かり保育の新施設運用開始



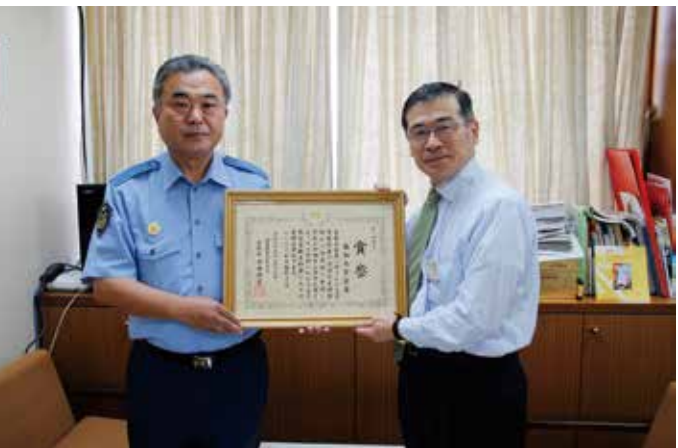
学童保育・預かり保育は、この日から、福島市飯野町の草野・飯樋幼稚園仮設園舎の施設での運用が始まりました。小学生は下校後スクールバスで移動します。

8月23日
試験栽培のようす



国により6月末から草野向押（伊丹沢）で行われた水稲29a・野菜10aの試験栽培のようす。農地除染の効果を確認するためのもので、結果は11月に公表され、すべて検出下限値未満でした。

8月31日
死亡事故ゼロ1年の表彰



南相馬警察署管内で交通死亡事故ゼロの日数が1年間に達し、同署から青田勝則署長が飯野出張所を訪れ、県警本部から授与された賞状を披露し、報告を行いました。

9月5日
「高齢者を支え合う仮設住宅の仕組みづくり講演会」開催



住民福祉総合研究所（埼玉県）の木原孝久所長が旧明治小応急仮設住宅の住民と共に、要援護者や支援者を書き込む「支え合いマップ」を作り、飯野学習センターで講演会を行いました。

9月6日
飯館中学校で開校式が行われました



2学期から使用が開始された飯館中学校の新仮設校舎で「開校式」が行われました。会場となった多目的ホールに全校生徒・職員と村の関係各位が集い、式の中では生徒会が震災後の中学校の取り組みを映像で紹介しました。



▲式の後には、ピアニストの梯剛之（かけはしたけし）さんによるコンサートが開かれ、美しい旋律が式の日を彩りました

9月7日
放射線講演会



飯館中学校で、東京大学附属病院の中川恵一先生による「放射線講演会」が開かれました。この講演会は、学校に派遣された医師から直接学ぶ「ドクタービジット」として行われました。

9月8日

飯館村民グラウンド・ゴルフ大会

福島市飯野野球場を会場に、村民120人余りが参加しての開催。16ホールストロークマッチの男女別個人戦でスコアを競いました。



▲講師の指導で準備体操を楽しむ参加者



▲残暑が厳しい中も和気あいあいとプレー



▲表彰式の様子

9月11日

営業再開事業者の認定



7月17日の区域見直し以降、国の許可を得て村内で事業を再開できるようになりました。村長から事業者へ、再開を許可する認定書が手渡されました。

待望の営業再開



協力して自動車整備する高橋さん（右）と巨さん

飯館

高橋 巨さん 61

けい子さん 57

匠さん 26

親子で車整備

飯館村で営業再開した事業者は、親子で車整備をする高橋さん（右）と巨さん（左）だ。巨さんは、飯館村で営業再開した事業者で、高橋さんは、巨さんの息子で、飯館村で営業再開した事業者だ。巨さんは、飯館村で営業再開した事業者で、高橋さんは、巨さんの息子で、飯館村で営業再開した事業者だ。

福島民報新聞 H24・9・11

9月12日

田中俊一氏と村長の会談



村の除染アドバイザーであり「飯館村までいな除染会議」の委員長を務めた田中氏。原子力規制委員長に就任することとなり、村における任を辞することとなりました。

9月14日

鹿野元農林水産大臣の来庁



鹿野道彦元農林水産大臣が飯野出張所を訪れました。鹿野元大臣は会議室で村議会議員、行政区長などと面会して意見交換も行いました。

9月16日

飯館村敬老会



▲会場となった福島市飯野小学校体育館の様子

避難先から300人
東京電力福島第1原発事故の影響で全村避難を続ける飯館村は16日、福島市飯野町で敬老会を開き、避難生活を送る高齢者の労をねぎらった。
行政機能を移す飯野地区での開催は昨年に続き2度目。福島市や川俣町、伊達市などに避難する約300人を招待した。菅野典雄村長
のあいさつに続き、村から敬老祝い金、相馬農高飯館校から祝い品、村社会福祉協議会からキーホルダーが高齢者に贈られた。
草野・飯館幼稚園の園児によるお遊戯や町内団体による舞踊などの演芸が催された。村社会福祉協議会の職員らはスコップをたたく音で三味線のように演奏する「スコップ三味線」を披露し、お年寄りを楽しませた。



福島民友新聞 H24.9.23

9月20日

赤松元農林水産大臣の来庁



赤松広隆元農林水産大臣が飯野出張所を訪れて、村長と会談し、意見を交わしました（写真は右奥が赤松元大臣）。

9月21日

いやしの宿で健幸教室



運動を中心とした健康教室「までい健幸教室」が借り上げ住宅入居者を対象に、いやしの宿でも行われるようになりました。

9月24日

避難指示解除見込み時期を国へ通知



村が避難指示解除見込み時期の案を国に提出しました。伝達は飯野出張所で行われ、村長が政府原子力災害対策本部の熊谷敬（たかし）副本部長に通知文書を手渡しました。

9月25日・27日

避難先で100歳賀寿のお祝い



満100歳を迎えた松田マチノさん（写真右・深谷）、高野久次郎さん（関沢）の賀寿を祝い、内閣総理大臣からの祝状や、県・村・各機関からの記念品が贈られました。

9月22日

草野・飯樋・臼石小学校の運動会



2年ぶりとなる草野・飯樋・臼石小学校の運動会が、飯館中学校の校庭を会場に行われ、秋晴れの空の下、3校の児童が力を合わせて競技に取り組みました。

9月25日

二枚橋に仮置き場を設置



村内で本格除染が始まったことに伴い、二枚橋で除染廃棄物を一時的に保管する仮置き場の整備が始まりました。作業員が用地の雑草を刈り取るようすです。

9月28日

平成24年度飯館村表彰式



飯野出張所で平成24年度飯館村表彰式が行われ、功労表彰の2名と、善行表彰の1名・1団体に、表彰状と記念品が贈られました。

9月29日

草野・飯樋幼稚園の運動会



仮設園舎の園庭で、草野・飯樋幼稚園の運動会が行われました。園児たちは揃いのTシャツを着て、元気いっぱいにかけてやりレー、親子競技等を楽しみました。

10月2日

教育を語る会



震災前から行われていた「教育を語る会」。今後の村の教育について協議が続けられています。

9月29日

県軟式野球大会2回戦を健闘



県営あづま球場で行われた第6回市町村対抗福島県軟式野球大会に飯館村チームが出場し、延長戦の末1回戦を突破。2回戦は惜敗しましたが、健闘ぶりは村民を勇気づけました。

10月4日

健幸づくりイベント「花と歌と健幸と」



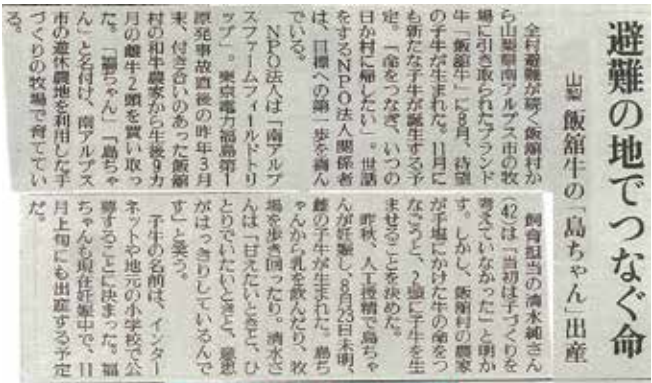
相馬市高齢者サポートセンターで開かれました。贈られた生花を髪に飾って、筑波大学・久野譜也先生の健康講話を聞き、普天間かおりさんのミニコンサートも楽しみました。

10月6日

川俣町のコスキン・パレードに参加



草野・飯樋・臼石小学校の児童とPTA約30人が、川俣町の南米音楽の祭典「コスキン・エン・ハポン」のコスキン・パレードに2年連続で参加しました。



福島民友新聞 H24.9.30

10月7日・8日
 いいたて村文化祭



▲県文化センターで「いいたて村文化祭」が開かれ、大ホールのステージでは小学生・中学生の研修旅行の報告会などが行われました



▲見事な一閑張りの作品を展示した「やまゆり会」が村長賞を受賞しました



▲外内手踊り保存会による笠踊り。来場者を魅了しました



▲2日目には相馬農業高校飯館校の文化祭も同会場で行われました



▼さとう宗幸さんの「いいたて応援コンサート」



▲13団体による演芸の発表も。「佐須の虎捕り太鼓」



▲東京おもちゃ美術館による「木育キャラバン」の会場も、終日にぎわいました

子育て中のお母さんも編集委員に

編集委員の一人 庄司智美さん

放射線かわら版

疑問や不安解消 飯館校が発行

放射線に対する疑問や不安を少しでも解消しようと、飯館校は住民とつくる新聞「かわら版 道しるべ」を発行した。子育て中の母親が編集委員として加わり、率直な井戸端会議の様子を伝えるなど、生活感あふれる内容だ。

「かわら版」は新聞とはほぼ同じ大きさで計2頁。第1号は、井戸端会議のほかに、身近な野菜を使った放射線測定の方法や写真やイラストをふんだんに使って紹介した。「調理で放射線物質を減らそう」というコーナーでは、「泥を落とす」「水で洗う」などの方法をいかに説明している。

編集委員の一人で福島市に子ども4人と避難している庄司智美さんは「難しい放射線の話や、少しでも理解してもらえそう心がけた」と話す。今後、直売所での買い物、外遊びや雪遊びの注意などを特集する予定だ。

村は3,000部を発行し、22日以降に各戸配布する。来年8月までにさらに4回発行する考えだ。



10月24日
 二枚橋で除染作業開始



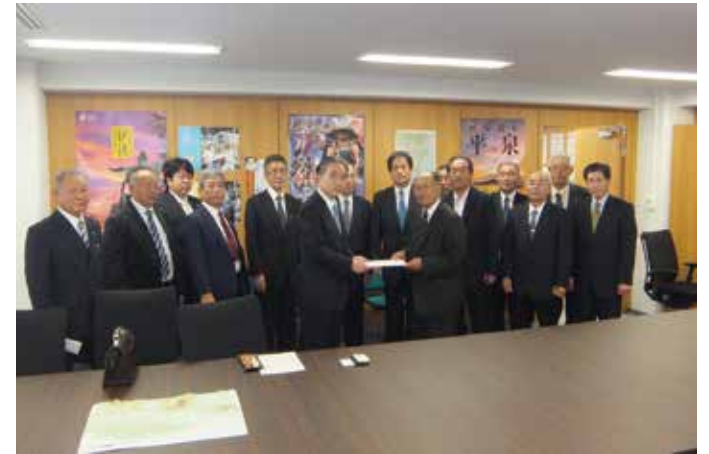
二枚橋地区で本格除染の作業が始まりました。複数の家屋の除染作業を並行し、面的に除染を行っています。

10月27日
 「いいたてっ子発表会」の開催



草野・飯樋・白石小学校の体育館で、「いいたてっ子発表会」が開かれ、三校の児童が学年ごとに合同で、ダンスや劇、合奏などを発表しました。

10月26日
 行政区長会が国への要望活動



行政区長 11 人が、環境省・農林水産省・経済産業省・厚生労働省・復興庁・民主党本部・東京電力本社を訪れ、避難指示解除時期や賠償等に関する要望書を提出しました。

10月29日
 菅野村政 5 期目がスタート



無投票当選が決まり 5 期目がスタートしたこの日、菅野典雄村長は飯樋出張所会議室で職員訓示を行い、復興へ共に歩んでほしいと職員に呼びかけました。

11月6日
 福島市との協定の締結



村と福島市が、相互協力と交流を行うための『「いいたてまていな復興計画」に基づく帰村のための取り組みへの支援に関する協定書』を取り交わしました。

11月7日
 草野・飯樋幼稚園はっぴようかい



草野・飯樋幼稚園のホールで「はっぴようかい」が開かれました。子どもたちは練習してきた劇や合奏等を、満員の保護者たちの前でのびのびと発表しました。

事業所マップを作成

営業再開した60店掲載

今と生きる

計画の避難区域 7月再編の飯館村 商工会青年部

福島民報新聞

H24.11.6

「ふるさと」復興を思い
高校生が「飯館学」発表

相馬県高飯館校の18人 修学旅行先の奈良で

飯館学 発表の準備をする林千恵さん
(左)と佐藤友さん(右) 福島市

飯館学 発表の準備をする林千恵さん
(左)と佐藤友さん(右) 福島市

朝日新聞

H24.11.6

11月8日

東京電力・石崎副社長の来庁



1月から業務を開始する東京電力福島復興本社の代表に決まった石崎芳行副社長が村役場を訪れ、村長と会談を行いました。

11月9日

飯館村までいな除染会議のモニタリング調査



飯館村までいな除染会議の委員が、須萱地区でモニタリング調査を行いました。除染効果を住民の目線で確認するため、除染の前後と実施中にも測定を行うものです。

11月10日

村老人クラブのパークゴルフ大会



福島市瀬上町の河川敷グラウンドで「第1回飯館村老人クラブ連合会パークゴルフ大会」が開かれ、約70人が出場しました。

11月14日

復興推進委員会の視察



復興庁設置の有識者会議「復興推進委員会」から五百旗頭真（いおきべまこと）委員長他4人が来庁。その後、飯館中学校の仮設校舎と菊池製作所の視察を行いました。

11月15日

農業委員会の建議



村の農業委員会の代表4人が来庁し、徹底した除染と村への帰村、復旧・復興について、村長あてに建議を行いました。写真は建議書を村長に手渡す菅野宗夫会長。

11月15日

協会主催のグラウンド・ゴルフ大会



震災後初めてとなる村グラウンド・ゴルフ協会主催の大会が伊達市のグラウンドで開かれ、約60人の参加者が和やかにプレーを楽しみました。

11月17日

喜多方で復活した「おこし酒」



喜多方市に避難する小林稔さん（前田・八和木）が酒米を育て、大和川酒造店の協力を得て「おこし酒」を復活させました。



▲完成した本醸造「おこし酒」 ▲純米大吟醸「飯館」 限定販売の生酒

飯館パトロール隊結成

除染作業に当たる治安維持に協力

建設工事企業体
全村避難しての飯館パトロール隊結成に協力

飯館パトロール隊結成に協力
建設工事企業体
全村避難しての飯館パトロール隊結成に協力

福島民報新聞

H24・11・16

11月18日

「第24回ふくしま駅伝」に出場



飯館村チームは、全16区のうち第8区以降の後半に出場。選手は県外を含む避難先で自主練習を重ねて大会に駆け付け、村のたすきをつなぎました。

11月26日
除染作業従事者講習会



国の委託を受けて、村が実施する村内除染の作業従事者に対して、作業開始を前に講習会が行われました。

11月29日
新までいな村構想推進準備委員会



復興計画に基づき具体的な事業を検討する同委員会の3回目の会議が飯野出張所で開かれ、3つの分科会の報告を受けて協議が行われました。

12月6日
「日本人の忘れもの」審査会



飯館中学校が全国に募集した10文字以内の言葉「日本人の忘れもの」の審査会が、特別審査員を迎えて行われました。

11月28日
村民と専門家のリスクコミュニケーション



専門家を交えて、各仮設住宅等でリスクコミュニケーションが行われました。写真は東京大学附属病院の中川恵一先生が訪れた松川第一応急仮設住宅でのようす。

12月2日
小中学生がアクアマリン見学会へ



東北海事広報協会の支援を受け、村が主催して「アクアマリン見学会」が行われました。小中学生とその家族がバス2台に分乗して水族館を訪れ、海洋生物に親しみました。

12月9日
飯館中学校体育館で「赤蜻祭」開催



飯館中学校の文化祭「赤蜻祭」が、落成披露を兼ねて新築の仮設体育館で開催され、クラス対抗の合唱コンクールや特設部の発表等が行われました。

12月9日
思いやりまでいラリーピンポン大会



パートナーが返しやすい球を打ち合い5分間のラリー数を競う大会が、村社会福祉協議会の主催により県青少年会館の体育館で2年ぶりに開かれ、約180人が参加しました。

12月14日
除染のようす



村が国の委託を受けて除染作業を行う須萱地区で、12月3日から森林や草地、法面の除草や堆積物の除去が行われました。



12月15日
「結もちプロジェクト」開催



あぶくま地域の女性農業者による「かーちゃんのか・プロジェクト協議会」が、福島市松川町にある活動拠点「あぶくま茶屋」で、つきたての餅を来場者に振る舞いました。

12月17日
村出身者が青年海外協力隊へ



白石行政区出身の平野さやかさんが、青年海外協力隊の一員としてキルギスの大学で日本語教師を務めることになり、飯野出張所を訪れ村長に報告しました。

福島民報新聞 H24・12・15

川保南小と飯館合同仮設小
山木屋の児童ら 記念撮影も
ミッキーに大歓声

川保南小と飯館合同仮設小の児童ら、12月15日、山木屋の児童らと記念撮影。ミッキーの衣装を着た児童らも大歓声。

1月6日
平成25年飯館村消防出初式



飯館村消防団が飯館中学校本校の体育館で「平成25年飯館村消防出初式」を行い、新年にあたり、消防活動の取り組みへ、思いを新たにしました。

1月13日
平成25年飯館村成人式



村の新成人82人のうち60人が出席し、飯野学習センターで平成25年成人式が行われ、会場は晴れ着姿の新成人の笑顔で華やぎました。

1月15日～18日
オーストラリアからの学生の訪問



前年、村の中学生が訪問したオーストラリア・アルバーニーの私立学校から、日本語を学ぶ女子学生6人が来村し、仮設住宅や幼稚園、小中学校を訪問して村民と交流しました。

1月10日
川俣町の幼稚園に感謝をこめて



村外に避難した村の幼稚園・小学校を1年にわたり受け入れてくれた川俣町。村は川俣町の各幼稚園に遊具を贈り、支援に対して改めて感謝の思いを伝えました。

1月23日
石原伸晃環境大臣の来庁



石原伸晃環境大臣が飯野出張所を訪れ、村長及び村議会議員などと会談。村長が議長と連名の要望書を手渡したのに対し、大臣は「帰村に向けた環境再生に全力で取り組む」と応えました。

1月24日
第4回新までいな村構想推進準備委員会



同委員会が設ける3つの分科会が報告を行い、専門家や村民がそれぞれの立場から意見を述べて、事業を具体化するための協議を行いました。

1月18日
村ゲートボール協会の交流大会



福島市にある「ヘルシーランド福島」の屋内ゲートボール場で開かれた、村ゲートボール協会主催の交流大会。27人がプレーを楽しみ、表彰式の後は昼食を囲んで歓談しました。

1月19日・20日
いいたて&いいざか交流イベント



村と福島市飯坂町の有志による交流イベントが「いやしの宿いいたて」を中心に開かれ、のべ200人以上が来場。バレエ・ダンスの実演や、豚汁・餃子等の振る舞いを楽しみました。

1月23日
石原伸晃環境大臣の来庁



石原伸晃環境大臣が飯野出張所を訪れ、村長及び村議会議員などと会談。村長が議長と連名の要望書を手渡したのに対し、大臣は「帰村に向けた環境再生に全力で取り組む」と応えました。

1月24日
第9回いいたてまでいな復興計画推進委員会



同日行われた「新までいな村構想推進準備委員会」の検討内容について、復興計画の理念に基づき各委員が積極的に協議を行いました。また復興計画第3版の素案作りにも着手しました。

1月22日
小中学校で放射線教育授業研究会



小中学校で行う放射線教育の授業研究会が、草野・飯樋・白石小学校の5学年と、飯館中学校の2年1組を対象に行われ、それぞれ教員が研究授業を行いました。

1月24日
第4回新までいな村構想推進準備委員会



同委員会が設ける3つの分科会が報告を行い、専門家や村民がそれぞれの立場から意見を述べて、事業を具体化するための協議を行いました。

1月25日
東京電力福島復興本社代表の来庁



1月1日付で檜葉町に設立された東京電力福島復興本社の石崎芳行代表が飯野出張所を訪れ、村長、村議会議員などと会談。村は要望書を手渡し賠償手続等の改善を求めました。

1月31日
「こあら号」のお披露目式



豪日交流協会他から寄贈された移動図書館車「こあら号」の準備が整い、オーストラリア駐日大使ブルース・ミラーさんらを招き、草野・飯樋・白石小学校でお披露目式が行われました。

2月5日
新までいな村構想推進準備委員会 第1分科会



復興計画の事業の具体化を検討している「新までいな村構想推進準備委員会」が設ける第1分科会では、「再生可能エネルギーの導入」について会議を重ね検討しました。

2月8日
新までいな村構想推進準備委員会 第2分科会



また第2分科会は、「インフラ整備と復興住宅」に関する検討を行っており、この日は飯野町に建設される「村外子育て拠点」を中心に協議が行われました。

2月2日
根本匠復興大臣の来庁



根本匠復興大臣が飯野出張所を訪れ、村長が「復興・復旧にかかる要望書」を手渡しました。村長は、要望について具体的な説明を行い、応じた大臣も着実な取り組みを約束しました。

2月7日
新までいな村構想推進準備委員会 第3分科会



同じく第3分科会では、「記録と伝承および情報発信」について検討。社会や後世に記録を伝承するための施設「までい館（仮称）」の構想等を話し合いました。

2月10日
ミュージック・フロム・ジャパン



村の子どもたちのためにと開かれた「ミュージック・フロム・ジャパン」の特別公演。福島市音楽堂で、草野・飯樋・白石小学校の児童が、雅楽教室とコンサートに参加しました。

2月14日
第1回飯館村防災会議



飯野出張所で開かれた初回会議。委嘱状が交付され、委員となった防災機関の担当者や役場職員などが、飯館村地域防災計画「原子力災害対策編（案）」の審議を行いました。

2月20日
第3回飯館村までいな除染会議



国の除染事業を検証・評価する同委員会の3回目の会議。除染事業の進捗状況を確認し意見交換を行った他、国の担当者が「不適切除染」について対応策を説明しました。

2月24日
いいたて村民ふれあい集会

福島市の「パルセいいざか」を会場に、村民約800人が参加しました。参加者は平成24年の10大ニュースの発表や、デュオ歌手「チェリッシュ」のコンサート、「こども再会ひろば」のアトラクション等を楽しんだ他、離ればなれの知人・友人との再会を喜び合いました。



2月19日
子ども議会が開かれました



草野・飯樋・白石小学校の6年生全児童が、飯野出張所議場で開かれた「子ども議会」に参加。村の課題や今後の取り組みについて、村長や教育長、各課長などに質問しました。

2月21日・22日
村農業委員と避難先営農者の意見交換会



「いやしの宿いいたて」で2日間にわたり開かれた意見交換会。14人の営農者がそれぞれ現在にいたる経緯を発表し、今後の見通しや課題について相互に情報交換を行いました。



◀ステージを楽しむ村民の笑い声がホールに響きました



▲たくさんの子どもたちが楽しんだビンゴ大会のようす

2月27日

「いいたてまでいな復興計画第3版(案)」の答申



福島市のホテルグリーンパレスで、「いいたてまでいな復興計画推進委員会」の赤坂憲雄委員長が村長に対し「いいたてまでいな復興計画第3版(案)」の答申を行いました。

2月28日

いいの&いいたて交流ボッチャ大会



村と飯野町、双方の老人クラブ連合会が飯野学習センターで交流会を開催。参加者は、混合チームでボッチャの対戦を楽しみました。

3月10日

避難犬と飼い主との再会



岐阜県のNPO法人「日本動物介護センター」が、村民から預かる愛犬を連れて村役場本庁を訪れ、21頭が家族と再会のひとときを過ごしました。

3月11日

東日本大震災追悼集会



飯舘中学校で、震災犠牲者を悼む集会が開かれました。多目的ホールに全校生徒が集まり、各学年代表が震災後2年を経た現在の思いを語った他、14時46分には全員で黙祷を捧げました。